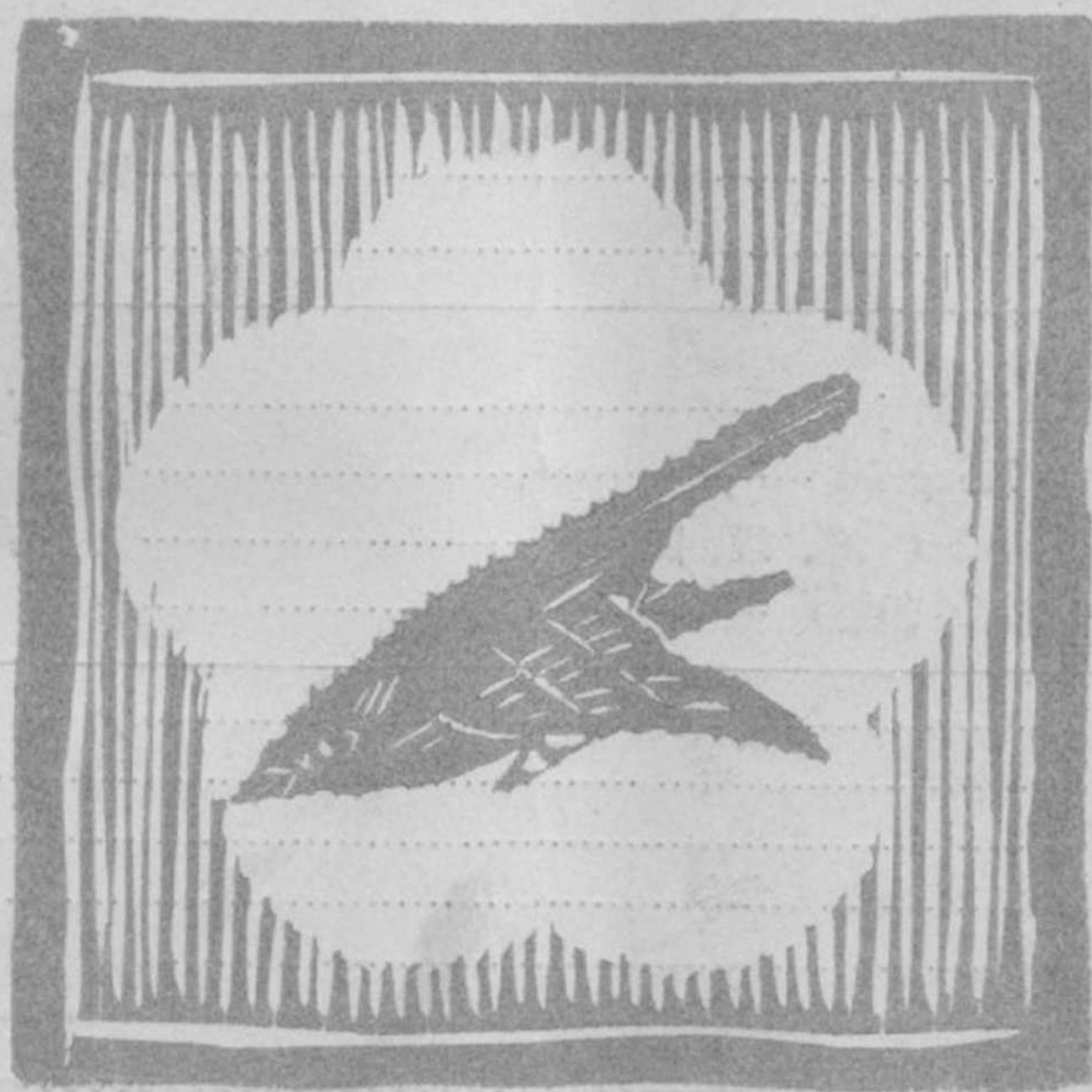


La Revuo Orienta



JAPANA ESPERANTO-ISTITUTO

ŜIN'OGAŬAMAĈI III UŜIGOME, TOKIO



目次	編輯者	守隨	一
D-ro Kijoo Nakomura	岡本	好次	33
嗚呼 中村精男先生	大石	和三郎	35
憶出の中村精男先生	大井	學	37
國會議員候補者の政綱	栗飯	原晋	39
邪道に彷徨する國際語製造狂	岡本	好次	40
初等講座 Arbaro	吉野	櫻雄	42
中等講座 Patro (Ĉeĥov)	松本	清彦	44
航空用語解(2)	加藤	正美	46
新刊紹介	大島	義夫	49
エス文			
Notoj pri l' Bibliaj Vortoj	宇都宮	正	50
Internacia Teknika Kongreso	高橋	邦太郎	51
Ino, Viro, kaj Intersekso (雌、雄、間性)	大島	廣	52
Fotografajo (朝鮮短編小説集)	金	億	54
海外報道	伊藤	己酉三	56
内地報道			58
會員の頁			63
學會より			64
(表紙) 鶯	露木	清彦	

★ 初等講習會

時日 昭和5年1月21日より2月末日
 迄毎週月、木兩日午後七時より一
 時間半

場所 學會(大曲電停にて降り少しく飯
 田橋によつた入交齒科醫を入り大
 通りに出て右へ一丁)

講師 露木清彦

會費 全期間を通じ金二圓(講習用書とも)

★ 中等講習會

時日 金曜日午後七時より學會にて(隨
 時入會可)

會費 月金五十錢

★ 例會兼研究會

毎水曜日午後七時より Hamleto 輪讀
 會費不用

★ 會話會

2月15日(第三土曜)丸の内鐵道俱樂部
 に於て、話者未定。

會費金五錢



中村 吉雄

Doktoro Kijoo Nakamura †

Kun granda malĝojo ni informas al vi ke la eminenta ĉefdirektoro de nia Japana Esperanto-Instituto, Doktoro Kijoo Nakamura, la monde konata meteorologiisto kaj nelacigebla protektanto de nia esperanta movado, finis sian surteran vivon de 75 jaroj, je la 16-a horo posttagmeze en la 3-a tago de Januaro.

En la 29-a de Decembro lastjara li vizitis la Kolegion Tokio Bucuri Gakko, kies direktoro li estis, kaj tiam lin atakis apopleksio kaj dum-

sestaga kuracado estis vana kaj la nigra mano de l' sorto lin forrabis por eterne de niaj manoj.

Oni havis la funebran ceremonion en la 6-a de Jan. ĉe la Kolegio.

D-ro Nakamura naskiĝis en Hagi, Jamaguĉi Gubernio, la 19-an de Apr., 1855, kaj li studis fizikon en Imperia Universitato en Tokio. En 1890 li fariĝis inĝeniero de Japana Centra Meteorologia Observatorio kaj en 1895 li fariĝis la direktoro de tiu Observatorio. Li ricevis la

titolon de l' doktoro de scienco en 1902, kaj fariĝis membro de Japana Imperia Akademio en 1908.

Li estis fama sciencisto ne nur en Japanujo sed ankaŭ en la tuta mondo, li vojaĝis por studi kaj ĉeesti Sciencistajn Konferencojn en Eŭropo kvar fojojn en sia tuta vivo.

En 1907 kiam li forvojaĝis al Francujo sur franca vaporŝipo, iu franco, oficisto de Hidrografia Departemento, konigis lin pri Esperanto. De tiam li komencis lerni Esperanton.

En julio en 1909 li aliĝis al la tiama centra organizaĵo de japana esperantistaro, Japana Esperantista Asocio. Poste li ĉeestis la kunsidojn de esperantistoj preskaŭ ĉiujn fojojn, kiam ni havis ilin. En 1914 oni elektis lin kiel vicprezidanton de la Asocio. (Tiam la prezidanto de la Asocio, Grafo Kaoru Hajaŝi, ministro de eksterlandaj aferoj, jam estis mortinta kaj vakis la seĝo de l' prezidanto kaj tial la vicprezidanto estis en fakto la ĉefa gvidanto de l' asocio.). Nia esperanta movado en 1910—1915 estis tre malvigla kaj la organa gazeto de l' asocio ne regule aperis. Li subtenis nian movadon en tiu malfacila tempo ne nur morale sed ankaŭ materiale. En 1916 okazis la tria Kongreso de Japana Esperantistaro kaj ĝin prezidis li kiel la ĉefo de l' asocio. De tiam li ĉiam partoprenis la kunsidojn aŭ kongresojn de samideanoj kaj prezidis kaj gvidis.

Post la dissolviĝo de l' asocio

(1919) stariĝis nova organizo „Japana Esperanto-Instituto“ kaj li fariĝis unu el la konsilantoj de l' Instituto. Kiam la Instituto ŝanĝis la statuton kaj leĝe personigita kun la permeso de l' registaro en 1926, li fariĝis ĝia ĉefdirektoro.

Oni memoras, kiel li aperis en nia kunsido kun afabla mieno kaj blanka kapo kaj ĝojigis la ĉeestantaron. Ni lin respektis kaj amis kiel la patron.

Ankaŭ li ofte publikigis ŝian studon en Esperanto. Ĉi-subaĵ estas la ĉefaj artikoloj skribitaj de li en Esp.

- 1) **Pri Kalkulilo, scroban'o.** (The bulletin of the central meteorological observatory of Japan. Vol. II. no. 2) (Marto, 1913)
(中央氣象臺歐文報告第二卷第二號)
- 2) **Pri registrilo de pluvintenseco.** (Journal of the meteorological Society of Japan) (Majo, 1911)
(氣象集志)
- 3) **Ciklonoj, kiuj ruinigis Formoson.** („) (Dec., 1911)
- 4) **Tertremo en hinda oceano?** (Traduko) („) (Junio, 1912)
- 5) **Pri malnovaj pluvobservejoj en Koreujo** („) (Aŭg., 1912)
- 6) **Noto je la tertremo en Dardanela markolo.** (Traduko) („) (Sept., 1912)
- 7) **Rimarkindaj ciklonoj.** („) (Okt., 1913)
- 8) **Eksperimento pri tertremo kaŭzigita de veturanta vagonaro.** (Traduko) („) (Feb., 1914)
- 9) **Resuma raporteto klimatologia en oktobro 1914.** („) (Dec., 1914)
- 10) **Vortoj de Fiŝkaptisto.** (Esp. legolibro kaj Krestomatio)
- 11) **Fatalisto (la unua parto).** (Revuo Orienta) (Jan., 1927)

La eldona fako de nia Instituto intencas publikigi post nelonge lian tutan esperantan verkaron en aparta libro.

Kaj nun, ho ve, ni plu ne povas lin vidi. Sed ni povas ankoraŭ aŭdi

la ĉhon de lia bonhumora rideto kaj bonkorajn afablajn vortojn, kiujn li eldiris ofte al ni laborantoj por Esperanto.

Lia nomo kaj lia nobla karaktero estas gravuritaj en nian memoron kaj ĉiam instigos nin al fervora

laborado por nia sankta afero. Al lia tuta familio ni ĵuras kontentigi lian animon per nia senlaciĝa klopodo kaj peno por nia celo. Pacon al lia cindro! Al lia tuta familio ni esprimas nian profundan simpatian kun ilia doloro. (O. K.)

嗚呼中村精男先生

高層氣象臺長 大石和三郎

庚午元旦を越えて三日、忽然として余の任地館野に飛電があつた。我が中村先生逝く。嗚呼夢か現か。夢ならば覺めよ。眞か偽か。偽ならば偽なれど哀へ急いだのである。直ちに先生の邸へと馳せた。今ははや幽明界を異にし、また先生の溫容に接することは出来なかつた。誠に哀しい次第であつた。

先生は安政二年四月十九日に長門國阿武郡椿郷東分村に生れられた。幼にして松下村塾に學び長じて東京大學に入りて物理學を修め明治十二年に同大學を卒業せられた。直ちに内務省御用掛として地理局測量課に出仕せられ、中央氣象臺の設置せらるゝや其の技師に任ぜられた。明治二十八年八月には中央氣象臺長に補せられ大正十二年二月二十八日老年の故を以て官を退かるゝに至るまで臺長の職に在られたること實に二十八年の久しきに及んで居る。更に其の在官の年限を算ふれば四十四年の永きに亘る。而して終始一貫氣象學及氣象事業の爲めに貢獻せられ以て日本の氣象事業が今日の盛を致すに至れる所以は今更云ふまでもない。其の間歐米に遊ぶこと前後四回。或は永く留りて斯學の研鑽に勉め或は各國を巡りて知見を博め或は國際議場に各國の學者と議論を上下し或は日本の氣象を世界に紹介し、斯くて日本氣象學が世界に盛名をなすに至れる所以のもの素として先生の力によらざるはない。是れ先生が日本科學界に重きをなす所以である。こゝを以て先生夙に理學博士を授けられ帝國學士院會員學術研究會議員測地學委員會委員震災豫防評議會評議員に列せらる。又大日本氣象學會の會頭であり大日本度量衡協會の會長であつた。而して我が日本エスペラント學會の理事長であつたことは言はずもがな。先生はまた明治十四年來同學の士と結束し私財を擲ちて東京物理學校

を創立し本邦に於ける理學の普及を圖り以て國家有爲の人才を養成すること茲に五十年ならんとす。而して先生は現に其の校長として職に在ること三十有餘年の久しきに及んで居る。同校が先生の爲めに校葬を營みたるは尤もなる次第である。

以上公人としての先生の略歴を述べた。いでやエスペランティストとしての先生の面影を偲ばん。先生がエス語を始められたのは明治四十年のことゝ覺ゆる。其の年巴里に於て萬國氣象協議會常置委員會が開催せられたので先生は夫れに列席する爲めに渡歐せられたのであつた。蓋し先生は其の途中の船中で佛國水路部員某に會し始めてエス語の宣傳を受けられたものと見ゆる。先生歸朝の後やがて自らはエス語の研究に勉めらるゝと同時に中央氣象臺員間にも其の宣傳をせられたのであつた。間もなく有志を集めて講習會も開かれた。當時日本のエス界は如何なる状態であつたか云ふに、明治 39 年に一時に勃興した盛況はいつの間にやら夢のやうに消え失せてエスペラントの名さへ口にするもの殆んど無き有様であつた。此の際に於ける先生のエス入りはエス界にさりて一路の光明を與へ行きづまりたるエス界に活路を開いたものである。エス語宣傳上第一着歩として是非とも必要なものは其の講習書と辭書とであるが當時其の孰れもが無かつた。千布氏のエスペラント全程や大成エスペラント和譯辭典の發行せらるゝに至るまでの経路に於て先生の大なる後援ありたるは疑ふべくもない。

先生やがて日本エスペラント協會の副會頭に推舉せられた。協會の組織が變りて學會になり尋いで財團法人となつて先生は擧げられて理事長になられた。協會にせよ學會にせよ

會が先生に負ふ所精神的に物質的にも甚大なものと謂はなければならぬ。

東京に於けるエスの會合には大抵の場合に於て先生の御顔を拜することが出来た。先生は萬事を繰合せて力めて御出席になつたことゝ思ふ。否寧ろ樂みとして御出席になつたのであらうと見受けられた。先生のエス語演説は雄辯であつたことは申されない。けれども條理明晰淳々として説き來り説き去り時に諸謔さへ交へらるゝ處は少壯者の及ばざるものがあつた。殊に外國人を解する上に就ては獨りエス語のみに限らず英佛獨語に對しても不思議な程の能力を有せられたやうに思ふのである。

嘗て聞いたことであつて今は臆るげながら回想して居ることがある。それは先生が信州飯田に旅行せられた時のことである。旅舎の主人恭しく金屏風を捧げ來りて一筆を乞願つた。先生墨痕鮮かにすらすらと筆を走らしたと思ふと、そはいかに。全く見なれぬ横文字であつた。旅舎の主人見てしばし啞然たりしがこはエスペラントの詩と云ふものなりと聞いて先づまづ安心したとの事である。こは先生がエスペラントを始められてから數年の後のことである。先生が如何に斯語に熱中せられてありしかゝ伺はれる。

先生の書かれたエス文集中で最も長く且つ最も特筆すべきものは算盤に關するものである。先生がエス文の題目として特に算盤を選まれたことは意味のあることゝ思ふ。算盤が簡單なる計算器として頗る便利なるにも拘はらず、西洋人間には殆んど之を知るものがない。固より西洋には完全なる計算器がある。けれども其の價高く數百圓に上るを以て算盤のやうに個人々々に之を備付くることは困難である。算盤が斯かる實用的なるものにも拘はらず、それが西洋に使用せられぬからとて之を無用視して學校に於ける算盤の教育を課せざるものさへあるは嘆すべきことである。エス文を介して廣く世界に算盤を普及せしめんとする先生の御考と此等の謬見とを對照して見れば誠に飛び離れた相違である。

先生は何につけても進取的の考を有せられた。日本に於ける文物は多くの總てが英米から輸入せられたのであるから度量衡に關してメートル法が今日になつて漸く施行せらるゝまでには非常な困難を経て來たものである。海軍水路部の海圖が全部メートル式に改版せらるゝには百萬圓を費したさうだ。最初からメートル法を採用して居たならば斯んな無駄

はせずに済んだ譯である。先生は日本の氣象事業に對して明治十九年の昔からメートル法を採用せられたのである。隨て氣象事業にありては世間一般がメートル法になるからとて一文の費用が掛かる譯ではない。却て世間一般が自分等と一様の度目を採用するに至つたので非常に便利を感じる譯である。我々後進のものは特に先生の先見の明に對して感謝せなければならぬ。米へんに分厘毛をつけて粉塵耗の字を作り之をデシメートル、センチメートル、ミリメートルと呼ばしめたことは先生方の創案のやうに聞いて居る。先生は斯んな氣性であられたから善く信ずることは直ちに實行せられた事と思ふ。エスペラントの如きも亦其の一例である。されば先生が其の事を聞かれたかと思ふと直ちに學ばれ、學び始められたかと思ふと直ちに其の堂に入られたのである。今から翻つて算へて見るに先生がエスペラントの事を始めて聞かれたのは先生の齡五十三のときである。昔から六十の手習といふ言葉があるのは六十にして手習をする人が稀なことを意味する。五十以上にしてエス語を始むる人は甚だ少い。然かも先生のやうに堪能になる人は尙更稀れである。けれども老年であるが爲めに出来ないと言ふのは能はざる譯ではない。爲さざるが爲めである。世の人の多くが先生を模範としたらばと余は常に思つて居る。

先生居常悠揚迫らず。人に接するに差別を設けず。名利は追はず。毀譽褒貶は先生の氣に介する所ではなかつた。殊に先生が萬事を處するに秋毫の私心のなかつたことは衆人の推服する所以であつた。夫れにつけても思ひ起すは世のエス運動者である。世界各國到處にエス宣傳の活動者は少くない。けれども「己れ」といふものを主眼として働いて居る人も多い。爲めに同志互に相争ふやうな醜事を暴露するものもある。我がザーメンホッフ先生は常に申された。エスペラントは我の有ではない。全く諸君のものであるから諸君の欲するがまゝになされよと。ザーメンホッフ先生が己れを見ずして他を主とするの心は則ちザーメンホッフ先生の偉大なる所以である。而して我が中村先生の精神はまたザーメンホッフ先生の精神に外ならない。世のエス宣傳者が總て此の心を以て心としたならばエスペラントが勝利の彼岸に達するの期日も少しは早まるだらうと考へるのである。

中村先生は舊臘十二月二十九日東京物理學校で中村恭平氏と棋を闘はしつゝあられたが

俄かに卒倒せられた。其の後御手厚き療養も其の甲斐もなく一月三日の午後四時十分に至りて遂に逝去せられた。先生位は正三位に陞らせ給ふたが、天恩は優渥にして更に一月三日を以て特に勳一等に叙し瑞寶章を賜はり以て先生の功績を表彰し給ふた。巻頭載する所の先生御肖像に添へたる御名前は實に先生御卒倒の前日たる二十八日に先生から賜はつたる御手紙の中のものである。是れ或は先生の

絶筆か或は少くとも絶筆に最も近きものであらふ。

嗚呼今や我等が明星と仰ぎし先生の溫容はまた見るべからず。然れども偉人の遺せる心は長へに天地の間に漲つて居る。目に見ゆる明星の光は消ゆとも目に見えぬ光は永へに消ゆべくもない。願はくば我が同志の友よ此の見えぬ光をたどりて我が勝利の目標に向て進めよ。



D-ro Nakamura inter Esperantistaro antaŭ 20 Jaroj (1910).

(De dekstre) La antaŭaj: Ŝimura, D-ro Kuroita, Abiko, Grafo Hajaŝi, D-ro Nakamura,...
La malant. (6-a) Ĉif, (7-a) D-ro Takakusu, (9-a) D-ro Oka.

憶出の中村精男先生

大井 學

本月の三日學會の初顔合はせ會の席上突然に中村先生御危篤の報をきいた。さるものもさりあえず中村先生が御養病以來お寢みになつたまゝの物理學校へ岡本君と駆けつけたが、時既に遅く中村先生は校舎の奥まつた三階の日本室で永い眠りの床に横はつて居られた。先生の御永眠された物理學校の校舎、そこは私達古いエスペランティストの忘れることの出来ぬ憶出の場所なのである。中村先生とエスペラント、私達のこの憶出の中心は此の物理學校の一室に歸つて行く。私は往事のそれと今日眼前に見る中村先生の御遺骸を前に

して感慨に堪えず、どうしても眼前のこの冷い事實を信じるこゝが出来なかつた。

時は速やかに流れ去つて回顧すればほとんど二昔のこゝになる。うすれかゝつたその時分の記憶は喚び起すのも難しい。小坂さんの言葉を籍りれば日本のエスペラント運動史の所謂暗黒期であつて、エスペラント運動の機關誌「日本エスペラント」も休刊の餘儀なきに至り日本エスペラント協會の名も世人から忘れ去られて、僅に原田素軒氏の謄寫刷雜誌「Orienta Azio」と小坂氏等の横須賀支部の謄寫版刷「Orienta Stelo」と回覽雜誌「Jokoska

Esperantisto」のみが貴い辛苦の下にやつと續けられて居た大正元年頃、當時白面の一書生の私は初めてこの物理學校で講習會を行つたのであつた。中央氣象臺長であられた中村先生は又物理學校の校長として集會場を持たない我々に學校の一室を提供せられた。そしてそれ以後可成り久しきにわたつてこの物理學校の一室が講習會場であり、又エスペランチストの例會場となつて居て、私は今でもはつきり思ひ起すことが出来るのだが、中村先生は例會の度毎に牛込南町のお宅から缺かさず出席されて我々を指導されたのであつた。私は「大成エスと辭典」が始めて出版され物理學校の部屋の一隅に堆高く積まれてあつたのを今尚はつきり覚えて居る。古く出版された日本語のエスペラント教科書獨習書も絶版になつた以後、新しいエスペラント運動の復活に大いに貢獻したものは「大成エスと辭典」と千布氏の「エスペラント全程」であらう。この兩者の出版にあつて第一に精神的、物質的援助を與へられたのは中村先生であつたことを思へば亡き先生をエスペラント運動復活の父或は母と呼ぶのも決して過言ではないであらう。

露西亞の盲詩人エロシエンコが齟然と來邦したのもこの物理學校時代であつた。なんでもエロシエンコは着のみ着のまゝで中央氣象臺に中村先生を訪れたと云ふことである。中村先生はこの遠來の盲詩人の一身については一方ならぬ世話をやかれ、東京の盲啞學校に世話されたのも先生だと聞いて居る。

エロシエンコの他にアレキサンダアや數ヶ國のエスペランチストが來て居る時であつたので物理學校に於ける例會は始から終り迄完全にエスペラントで會話されることが多かつた。當時大學生であつた淺井惠倫氏等もエロ

シエンコを稽古臺にして盛んに口角泡を飛ばして居たのを記憶して居る。エスペラント運動史の暗黒期の一時期もこの物理學校の片隅では現在にも見られない位の活場面のあつたことは一重に中村先生のお蔭であつた。

私が物理學校の此の一室で二昔にもなろうとする今日、中村先生の御遺骸に相對した時、口になし得ない感慨に先生の御長逝を信じ得なかつたのも無理ではないであらう。

も一つはつきりと記憶に焼きつけられて居る先生の御姿は横須賀に講演旅行をした時のことである。今、小坂さんの手刷になる古い謄寫版刷の *Oriente Stelo* 附録講演集と云ふのを繰つて見ると、それは大正二年六月廿一日のことである。中村先生と黑板勝美氏、それに杉山隆治君と私がお供して東京から横須賀に出かけ、同地の勸業商會で普及講演會を開いた。その時、中村先生は「飛行機界とエスペラント」の題目で講演され、その筆記は黑板博士の講演筆記と共に謄寫版刷りが残つて居る。小坂さん始め同地の同志の御盡力により一行は旅宿を俱にし面白い話があつた様であるが今ははつきり覚えて居ない。その翌日は一行揃つて鎌倉に至り、八幡宮横の師範學校で同じ講演をされた後に、横須賀からの同志等と共に炎天の下を元氣に若者達と鎌倉中散策された先生の姿は今なほはつきりと腦裏に残つて居る。

最近の中村先生については諸君の多くが御存じであらう。中村先生御長逝の喪が發せられて後、私が御通夜に先生の御宅を伺つた時、先生の御遺骸を祭られた部屋こそはつい先日迄私達がお伺ひしては理事長であられた先生に學會のこと何くれと御相談に乗つて頂いた部屋であつたことを憶ひ、改めて人の命の餘りはかないのに胸がせまつたのであつた。

國會議員候補者の政綱

粟飯原 晋

47. 歐洲國語の消長

スキスのノイエ・チューリヒエル・ツアイツング紙が過去百年間に於けるヨーロッパ各國の國語の消長に就て面白い調査を公けにした。國語の生長さいふ點で第一位を占むるものは英語で、百年前には之を使用するもの二千萬人に足りなかつたが、今日では一億六千萬人が使用し、更に六千萬人が之を理解する。次にドイツ語は百年前には三千二百萬人によつて語られてゐたが、現在では八千萬乃至九千萬人が使用し、更に二千萬人が理解する。他のチュートニツクの言語は何れも十割以上の増加を示して居る。例へばオランダ語は六百三十萬人より千五百萬人に、スウェーデン語は三百二十萬人より七百五十萬人にデンマーク語は二百十萬人より五百萬人といふ有様である。

しかしローマン系の言語の發展は大して早いものでもない。イタリー語は二千四百四十萬人より四千五百萬人に、スペイン語は三千五百二十萬人より五千萬人に増加した。フランス語は母國語として百年間に三千二百四十萬人より四千五百萬人に増たに過ぎないが、七千五百萬人の外國人によつて了解されて居る。此の點ではフランス語は英語よりも千五百萬人も多く、フランス語の勢力も未だ相當あることを物語つてゐる。

いまエスペラントを理解する人が少く見積つて世界に僅か百萬人しかないものとしても、その發展力はすばらしいものではないか。今から四十何年か前にやつと創案せられたことを思へば。

48. 學界に認められるには

『北海道へ秋から冬に旅行した人は食堂等で必ず美しい甘さうな林檎を見せつけられながら餘り珍しくもないバナナを喰はせられることがある。林檎が食べたかつたら臺灣へ行くがよい。バナナを食ひたい人は門司より先へ行くものではない。偉人は故郷に容れられないとは古今の明言である。わが學界に認められやうと思つたら論文は日本語で書いてはいけない。』（理學博士中村左衛門太郎氏。河

北新報、Majo 30, 1929 所載）。須く學習容易で自由に書けるエスペラントでお書きなさい。

49. 議員候補者の政綱

大分に古い話である。1907年頃フランスの國會議員リュシアン・コルネ氏がエスペラントを現代語の課程を有する公立學校の正課に編入し、英語、ドイツ語、イタリー語、スペイン語及びアラビア語と並立して試験を行ふ案をフランス議會に提案したことがあつた。此の提案には實に六十八名の議員が署名して賛成を表してゐた。再び云ふが、これは1907年頃のことである。斯様に、議員間にエスペラント熱が盛であつた爲めか、其の頃の議員總選舉には、多くの議員候補者が、舉つてその政綱の中に『エスペラント語の教授』といふ項目を入れ政見發表演説では、エスペラントの重要性を述べたものである。

日本では近く第二回目の普通選舉が行はれんとしてゐる。『國語の擁護、國際語エスペラントの使用』といふ様な項目を政綱に入れる賢明なる議員が出ないものだらうか。

50. 國語の擁護

ピルスズキー將軍の獨裁治下にあるポーランドには新興の意氣が漲つてゐる。テシンといふ町のある喫茶店が『ウンテル・デン・ヒルシエン』といふ小看板を掲げた處、土地の學生連はドイツ語を使ふなんて怪しからぬとて、ポーランド語に書替える様に主人に詰寄つたものだ。然し彼が頑として應じないので學生連は大舉して此の喫茶店に乘込み三日三晩、凡てのテーブルを占領して水ばかり注文し、夜になつて主人が電燈をつけず、無抵抗主義の戦法に出ると蠟燭を持ち込んで對抗する始末に流石の頑固親爺も遂に降参して看板をポーランド語に改めた。そこで翌日學生連はまた大舉して押し掛け、今度は上等の晩飯を奮發して親爺の改心を祝福し、ポーランドの萬歳を唱へた。そして今ではポーランド語で『ポツド・シエレニエム』と立派に書いた看板が掲つてゐる。日本さは一寸異つてゐる。

邪道に彷徨する國際語製造狂

新國際語 OCCIDENTAL の紹介批判を兼ねて

(1)

岡本好次

はしがき 昨年11月下旬東京大阪を初め各地の新聞紙上に「最新國際語 Occidental」の出現を報じて居る記事がでたのでその後大方々の同志から問合せがあるのでこの際 Occidental の如何につまらぬ國際語であるかを紹介し併せて「我々は今後とも決して所謂最新國際語なるものの出現を聞いて驚くにあらぬ」と云ふ事を論じてみたいと思ふ。そこで單に Occ. 語の文法紹介を云ふよりも一般に最近の國際語の傾向その他を論じて「將來斷じてエス語よりも優秀な國際語の出現しない」と云ふ私自身の信念をのべて今後新聞に時たま出現するつまらぬ一片の報道に不安を抱かれたりする事なく着實眞剣に我々の sankta laboro の道を進まれんことをお勧めしたいと思ふ。

私は人類が出現を望んでやまなかつた國際語——人類語は Esperanto によつて完全に解決されたことを信じて疑はない。勿論 Esp. 語も完全無缺とは云ひ得ないかしらぬが殆んど完全に近い事はエス語を永年研究し併せて他の所謂國際語と比較したものゝ等しく感ずる所である。而してもエス語に萬一重大なる缺點が発見されたとしても（そんな事あり得ないと思ふが——何となれば過去40年間の實用が何等重大な不都合をきたしてゐないから）その際我々はその點だけを變更した從來のエス語を使用して行つて何等差支へないのである。私は確信する。エス語は完全な國際語であり此の libera natura evoluado によつてのみ我々の將來の國際語問題は解決すると。何が故にかく信ずるかには次に Occidental 語の批判を兼ねて説明することとしたい。

なぜ今もつて新國際語製造が止まぬか まづ第一に既に四十餘年の歴史を有し數百萬の使用者を有する Esp. 語の存在を承知しながら新しく國際語の考案に努力する人があるかと云ふに

1. Esp. 語は嫌ひではないが自分の個人的趣味（又は國民的趣味）に合致致せない點があるため自分の趣味に合ふ様改造したくなりだんだんやつてゐる中に自分自身の製造した國際語を考案してみようとする事。

2. 自分一個の賣名のため。世界が思つ

た程國際語をもてはやさぬのは Esp. 語が世間の氣に入らぬのだと誤解し世間の氣に入る様な語を考へようとする事。

の様な事が主たる原因ではないかと思ふ。

O. Jespersen が Novial（昨年小坂氏が本誌で批判したもの）を考案したのもやはり自分の賣名と自分の趣味を生かす爲ではないかと思ふ。Jespersen は嘗ては Esperanto の賛成者であつたが 1907 年 Delegation の御大 Couturat, Leau と當時の佛國エス運動の御大 Beaufront との陰謀によつて出現した Ido の支持者として時には Idista Akademio の會長の職にさへあつたにも拘らず Ido の構造に不満を抱いて廿年の idista 生活をすて、Novial を發表した。彼は Ido が 1913 年すつかり改造を中止して固定する迄屢々各種の改良意見をのべた。その中案外採用されたものが少く彼自身名案と思ふものが Couturat に一蹴されて不満を抱いてゐた。即ち Jespersen が Ido 運動に投じたのはまさしく自分の改造意見が用ひられ自分の趣味に合致してゆく様に思つたからである。だから改造意見が不通過となり、Periodo di Stabileso がきまつてみればこれから飛出すと云ふ事は既に時日の問題にすぎなかつたのである。

近年 Ido は災難つゞきで Jespersen のみならず Idistoj の中の改造派（本誌第八年第十號矢野氏稿参照）は殆んど Ido を飛出して行つた。丁度嘗て彼等が Esp. から飛び出した様に。1924 年 Wien の idista societo が Occidental に走り其後巴里の idisto の御大 M. de Guesnet (prezidanto de l' "Societo Idista Franca") が同志と共にこれ又 Occidental に改宗した。Ido の改造派の本山格であつたストックホルムの "Mondo" 誌は之亦 Ido 脱退を宣言して Novial の傘下に走せ參じた。かくて Ido 運動は Beaufront の下に僅かにふみとゞまる保守派の一派をのこして四分五裂の有様になつてしまつた。然しながら Ido を脱退して Nov. へ Occ. へさむかつた連中は改造好故又日ならずして別の新國際語と云ふものへ飛出してゆくのではなからうか。實に彼等の無定見無節操にはあきれるの外ない。

Occidental の作者 Edgar de Wahl も嘗ては Volapükisto であり Esperantisto であつた。彼も自分の趣味をおひ如何にすれば世間の愚物に氣に入る國際語ができるかと浮身をやつす國際語製造屋の一人である。まづ Occ. の構造を批判する前に彼の Occidental を作るに到つた經歷を一通りのべて一般國際語製造屋とはどんなものかと云ふ事を示したいと思ふ。

國際語製造屋は一般にこんな人々か Occidental の考案者 Edgar de Wahl はエストニア國の首府 Reval で數學物理學の教授たる人で 1867 年生れの本年 63 歳である。嘗て Volapükisto であり 1887 年 Esp. の出現後いち早く改宗して Zamenhof に對して tiam, kiam 等の古形 tian, kian の不都合について述べたと云はれてゐる。(Cosmoglotta Nr 51-52, Qui es li autor de Occidental? de Ric Berger による)。尙彼のエス譯詩が Fundamenta Krestomatio 395 頁にでゝゐる。(Heine の詩 *Ce l' Maro* をエス譯したもの)。彼は 1894 年 Esp. 改造案が 157 對 107 票で否決されたのを不満として Esp. 運動を去つたのである。

Wahl の其後の行動が Volapük 運動等に相當關係があるからこゝで些か當時の Volapük 運動を簡単に一瞥する。即ち 1880 年獨逸の牧師 Schleyer によつて發表されて一時はかなり各國に廣まつて三回も萬國大會を開いたにも拘らずその言語が餘りに人工的なため改造意見を持する一派と Schleyer との正面衝突となつて間もなく亡んでしまつた。即ち 1893 年 Peterburgo の volapükisto V. Rosenberger を其 direktoro とする Volapüka Akademio は Volapük 改造に關する研究團體となつてしまつたので非改造保守派の Schleyer が之を忌避して自分の意に隨ふ連中を集めて別のものを作りこゝに兩派が斷然袂を分つてしまつた。かくて Rosenberger はこの Akademio をその儘繼續して初志通り勝手に Volapük の改造に従ひ 1893 年から 1898 年に亘つて Idiom Neutral と云ふ改造語案を提示して akademianoj の賛否を求めた。1902-1903 年にはその獨英蘭語の I. N. 辭書をだし 1906-1908 年の間 Progres と云ふ雜誌をも出した。1907 年には Bonto van Bijleveld と云ふ人が Idei International と云ふ雜誌をだして I. N. の改造意見を出した。1906 年 Rosenberger が Progres 誌上に其後の自分自身の改造意見を發表した。それは主として ortografio を internacie にすることとそれによれば 12% の語彙を變更することになるの

であるが之に對し Edgar de Wahl は抗議をさへ別の自分の改造案を提出した。Esp. を去つた Wahl はこゝに再び國際語運動史上にのりだしてくるのである。この時 Luxemburg の Pinth も似よつた意見を提出した。それで 1907 年に Rosenberger はこの兩人の意見の大部分をとり入れて Idiom Neutral Reformed を發表した。これでは ortografio の形の上の internacieco を重んじたため一音一字の方針がやぶれて [k] 音に對し k, c, q, x があること云ふ不都合なものになつた。

1908 年にはその Akademio の direktoro A. Holmes が退職して伊太利の Torino の數學教授 Peano が選ばれる様になり機關誌 "Academia pro Interlingua—Discussiones" が發行される様になり年額 10 fr. fr. を出すものは誰でも akademiano になれること云ふ事になり國際語改造狂の連中がおしかける事になつたこれから Peano の勢力が増大して Idiom Neutral がおつばらはれて彼の考案した Latine sin flexione (ラテン語の六ヶ敷い語尾變化をなくして國際語として採用する案) を少しく變形した Interlingua が次第に認められた。Rosenberger はこれを見て脱退し後年 Reform Neutral を發表した。

扨 1916 年頃 Petrogrado に國際語研究の新しい團體ができた。その會名は "Kosmoglott" とよび Rosenberger, Boudoin de Courtenay, Vs. Ĉesihin (數箇の言語を考案す)、V. Šmurlo (Esperido 語考案者)、E. Drezen 等が之を創立した。その後 Rosenberger 死し 1921 年には V. Šmurlo 及 E. de Wahl はこの會の復活發展を企てた。かくて Wahl は Kosmoglott なる名稱の雜誌を出したが勿論いろんな國際語で書いた原稿がのせられてゐた。然し Wahl 自身は 1922 年に自分の考案の最後の案として Occidental を發表した。其後も 1924 年迄は Kosmoglott 誌には Occ. 以外の國際語で書いた論文もみられたが 1924 年 Wien の idista societo (1921 年の Idistoj の第一回萬國大會を開いた連中) が相率ゐて Ido に叛旗を翻して Occidental に走つてからは Wahl も本氣になつて Occidental の宣傳を初めた。1927 年には "Kosmoglott" 誌も "Cosmoglotta" と改名して Wien から發行される様になつた。

即ち Occidental は 1922 年發表された考案で最近發表されたものでは全然ない。作者 E. de Wahl と各種の國際語との關係は上述の様である。兎に角國際語製造屋とは皆こういつた人々で我々 Esperantistoj が専心斯語の普及に没頭してゐる間に唯あれでもないこれでもない改造又改造に浮身をやつし益々邪道を彷徨するにすぎない。(續く)

エスペラント初等講座

Arbaro

Malproksime post¹⁾ la kampoj kaj la herbejoj bruas arbaro, praarbaro.²⁾ De malproksime ĝi aspektas³⁾ kvazaŭ nigra bordero, kiu estas kudrita ĉirkaŭ la mondo. Tie kreskas diversspecaj arboj, kiel abio, pino, betulo, tremolo, tilio, alno, frakseno, acero, kverko kaj saliko. Ĉiuvintre⁴⁾ veturas la patro en la arbaron, dehakas tie arbojn por fornhejto⁵⁾, kiujn li elveturigas⁶⁾ de tie hejmen antaŭ la printempo.

Kvankam la arbaro ŝajnas⁷⁾ tre silenta de malproksime, tamen ĝi estas plena je⁸⁾ vivo. Tie kreskas miloj da⁹⁾ arboj unu apud la alia,¹⁰⁾ kaj etendas vete¹¹⁾ siajn suprojn¹²⁾ al la ĉielo. Sed kiam vetero estas venta aŭ uragana,¹³⁾ ho, kian¹⁴⁾ bruon kaj bruegon oni¹⁵⁾ aŭdas tiam en la arbaro! Tiam arboj kvazaŭ interparolas pri viditaĵoj⁶⁾ de sia vivo, ili kvazaŭ plendus unu al la alia sian malfacilan vivon.

La arbaro estas ankaŭ loĝejo por multaj bestoj. Tie ĉi loĝas leporo, vulpo, sciuro, erinaco kaj tre multaj

森

田畑 (kampoj) や野原 (herbejoj) の彼方遠くには、森、原始の森 (praarbaro) がざはめいてゐます (bruas)。遠くから(見るさ)、それは丸で (kvazaŭ) 世界の周りに縫ひつけられた (kudrita) 黒い縁 (nigra bordero) の様に見えます (aspektas)。其處には (tie) 色々な種類の (diversspecaj) 木、例へば (kiel~と言つた様な) 樅 (abio) 松 (pino) 樺 (betulo) 菩提樹 (tilio) 榉 (alno) 楓 (acero) 樫 (kverko) 柳 (saliko) 等が生ひ茂つてゐます。毎冬 (ĉiuvintre) 父は其森へ乗込んで、(veturas en~n) 其處で爐の炬火 (fornhejto) に使ふ、(por) 木を伐りさつて、(dehakas) それを (kiujn) 其處から (de tie) 春になる前に (antaŭ printempo) 積み出します (elveturigas)。

森は遠くからは (de malproksime) 大變靜か (silenta) な様に思はれます (ŝajnas) が、(kvankam) 而し (tamen) それは活氣 (vivo) に満ち充ちてゐます (plena je)。其處には幾千さ云ふ、(miloj da) 木々が立列んでゐます (kreskas unu apud la alia)。そして競ふて (vete. 賭けて) 頂 (suprojn) を天へさ (al ĉielo) 差延べてゐます (etendas)。乍併天候 (vetero) が風 (venta) か暴風 (uragana) の時には、森には、それこそ (ho,) ざはめき (brue) や怒號 (bruego) が聞える (oni aŭdas) のです。其時には、木々は丸で自分の一生 (sia vivo) の經驗 (viditaĵo) でも話し合つてゐる (interparolas) 様であり、又お互に (unu al la alia) 自分の辛い生涯 (malfacila vivo) をかこち (plendus) 合つてゐる様でした。

森は又 (ankaŭ) 澤山の (multaj) 獸 (bestoj) の住家 (loĝejo) です。此處 (tie ĉi) には、兎 (leporo) 狐 (vulpo) 栗鼠 (sciuro) 針鼠

specoj da birdoj. En tempo antikva¹⁷⁾ vivis en niaj arbaroj ankaŭ lupoj kaj ursoj, kiuj estis tre danĝeraj por brutaroj.¹⁸⁾ Somere iradas¹⁹⁾ infanoj en la arbaron kolekti²⁰⁾ berojn kaj alportas²¹⁾ el ĝi mirtelojn, fragojn, frambojn, oksikokojn, kaj rubusojn.

【註釋】1) post は時間的にも、場所的にも用ひられるが、malantaŭ は場所にのみ用ひられる。〔例〕i) Post (malantaŭ) la domo staras arbo. ii) Post tri tagoj, mi forveturos al Ōsaka. 但し antaŭ は時間場所兩方に用ひられる。2) pra'arbaro 原始林、pra は「時間的に過去又は將來に於て遠い關係にある物又は人」を指すを云ふだけで時間的に範圍を區切る事が出来ない。従つて前後の關係でそれが primitiva の意味にもなれば、antaŭa 位の意味にもなる。茲では原始林と云ふ譯は少し意味が勝ち強ざる。3) aspektas 外見上……に見える。今は殆んど用ひられなくなつた様であるが、Krestomatio などに散見する el'rigardi (……の様に外見上見える)は aspekti と同意義であらう。4) ĉiu'vint're = en ĉiu vintro. ĉiuvintre は ĉiu + vintro ではなく、ĉiuvintro を副詞化したものと解釋する方が正しい。ĉiu は代形容詞であるから文去上副詞である vintre を形容する事が出来ないからである。この種の誤りは初學者が往々不知不識の間に犯す處であるから注意せねばならぬ。

類例：lastatempe ≠ lasta tempe
ĉiumonate ≠ ĉiu monate

5) forn'hejto 爐の炬火、hejt' は本來動詞觀念を持つた言葉であるから hejto は「焚火」と云ふより、「焚くこと」即ち hejtado の意味に解する方が正しい。6) el'vetur'igi 車をひいて出る。7) ŝajnas, aspekti や elrigardi が外見一天張りであるのに對して ŝajni は必ずしも外見によらず、何等かの理由で「……の様に思はれ」さへすればよいのである。ŝajnas の次に直ぐ形容詞が続く場合には esti を補つて ŝajnas (esti) silenta と解する方が穩當である。8) plena je ……に満ちた、je は他に適當な前置詞の無い場合に用ひられるのであるが、昔は je が非常に多く用ひられてゐた。其名残りが今日に迄傳つて未だに不必要な場所や場合に je が代用されてゐる。plena je も今日

(erinaco) や非常に多くの種類の (multaj specoj da) 鳥が住んでゐます。昔には (en tempo antikva) 此森に家畜 (brutaro) に危険な (danĝera) 狼 (lupo) や熊 (urso) が住んでゐました。夏には (somere) 子供達が森へ蔓草の實 (beroj) を摘みに (kolekti) 森へ出かけます (iradas)、そしてそこから (el ĝi) 岩も、(mirtelo) や莓 (frago) や蝦夷莓 (frambo) つるこけも、(oksikoko) 木莓 (rubuso) などを取つて來ます (alportas)。

では plena de が用ひられる。9) miloj da 幾千と云ふ、無數の。10) unu apud la alia 一つが他の側に、相並んで。11) vet'e 賭して、こゝでは木々が競ひ立つありさまを賭事に譬へたのである。12) supro 頂上。i) sur ii) super. iii) supre は嚴密に區別せねばならぬ。i) 或物と密接して、その物の上に。〔例〕Libro kuŝas sur la tablo. ii) 或物と間隔を保つてその物の上に。〔例〕Mevoj flugas super la maro. iii) 或物の極端に於ける高處。〔例〕Supre sur la monto. 山の上の高い處に。13) uragano = ekstreme forta vento. blo'veto (微風) → vento (風) → vent'ego (大風) → uragano (暴風) ~ ŝtormo (暴風)。14) kian bruon ……何んを云ふ喧音を聞くことでせう(咏嘆)。15) oni aŭdas 人々は聞く、聞える、oni は主語として特定人を置く必要のない場合に用ひられるのであるから、日本語ではなる可く直譯を避けた方がよい。〔例〕i) Oni diras, ke ……と云ふ話だ。〔例〕ii) Oni trovis lin pikmortigita. 刺殺されてゐるのが發見された。16) vid'it'aĵo 見て來た事、經驗。勿論此中には見た事許りでなく aŭditaĵo も含まれてゐると見てよからう。普通、tra'vivo (經履) sperto 等が用ひられる。17) en tempo antikva 古代には、昔は、曾ては、遠近の過去を示す言葉を二三並べて見る。en primitiva tempo, en pratempo, en malnova tempo, foje, iam, lastatempe. 18) brut'aro 家畜の群。19) ir'ad'as, ad は動作の繼續を示す接尾字であるが、必ずしも間斷なきを要せず、習慣的に或動作が繰返される場合にも用ひられる。此場合は後者。20) kolekti 集める。kolekti は文法上 iradas の直接補語、意味を一層明確ならしめるには、por を補つて por kolekti と間接補語の形をさればよい。(L. Respondoj. 岡本氏譯 p. 54 參照) 21) al'portas ……の處まで持つて來る、持ち來る。〔例〕Alportu al mi glason da akvo. コップに水を一杯持つて來て呉れ。

エスペラント中等講座

【La Patro】

(5)

Anton Ĉehov

—Nun, dank' al Dio, mi kvietiĝis, mi ne havas plu fortan karakteron, sed antaŭe, kiam vi estis ankoraŭ malgrandaj, firma volo estis en mi. Kion ajn mi faris aŭ diris, ĉiam ŝajnis al mi, ke tiel devas esti. Ofte el la klubo mi revenis ebria, kolera kaj riproĉis vian mortintan patrinon pro la elspezoj. La tutan nokton mi turmentegis ŝin, kaj pensis, ke tiel devas esti. Ofte kiam vi leviĝis matene kaj iris gimnazion, mi daŭrigis plende murmuri. Dio mia, turmentegis mi la malfeliĉulinon!

【譯】「お蔭で、俺は今ちや穩やかになつて、意氣地が無くなつてしまつたが、お前達が未だ小さかつた時分には確乎(ぶつ)した意氣地を持つてゐたんだ。俺の爲す事、言ふ事は何に限らず、いつでも、さうなればならない様に思はれたんだ。時々俺は酔拂つて氣難かしくなつて俱樂部から歸ると、經濟の取方の事で、お前達の死んだお母さんを責めたものだ。一晚中俺はお母さんに叱言を云つてゐた。そしてそれもそうなければいけないと思つてゐたんだ。朝になつてお前達が起きて學校へ行つてしまつてからも、屢々俺はブツクサ言つてゐたものだ。可哀相に、俺は不幸な女を苦しめさいなんだのだ。」

【註】 dank' al Dio 神に感謝あれ、お蔭で。kvietiĝi kvieta=怒りつづかない、あまり興奮しない、熱情的でない、穩かなこと(Kabe)。ne~plu 最早……でない。forta karaktero しつかりした性格。firma volo 鞏固な意志。kion ajn ……處のものは何でも。tiel devas esti 斯くあらねばならぬ。斯くあるのが正しい。revenis ebria, kolera=revenis estante ebria, kolera. pro la elspezoj 支出(金遣ひ)の事故に。la tutan nokton=dum, (en la daŭro de)

la tuta nokto. lev'igi 離床する。gimnazio 七年制の中等程度の學校、中學。Dio mia! 驚嘆の意味に用ひられる事が多いが、こゝでは、憐みの咏嘆である。mal'feliĉ'ul'ino 不幸な女、可哀相な女。

—Se vi revenis hejmen kaj mi ankoraŭ dormis, vi ne kuraĝis tagmanĝi antaŭ mia vekiĝo. Dum la tagmanĝo—la sama muziko! Vi sendube memoras. Al neniu donu Dio tian patron! Por vin provi Dio sendis min al vi. Vere, por provi. Suferu, infanoj, ĝis la fino. Respektu vian patron, kaj vi longe vivos. Pro viaj virtoj Dio donos al vi longan vivon. Veturigisto, haltu!

【譯】「お前達は學校から歸つて來ても、俺が眠つてゐるさ、俺の起るまでは晝食を食ふ氣にもなれなかつたんだ。食事の間も又同じ様なお叱言だ。お前もきつと覺えてゐるだらう。こんな父親を持つた者は災難だ。神様が俺の様な者をお前達に贈り給ふたのは試鍊の爲だ。さうだ、試鍊の爲だ。だからお前達は、最後まで苦しむのだ。父親を重んぜよ、されば汝の命長からんさ。お前達の徳の爲に神様はお前達に長命を授けて下さるよ。おい御者停めて呉れ。」

【註】 ne kuraĝis tagmanĝi (叱言を喰ふので)晝食するだけの勇氣もなかつた。la sama muziko! 同じ音樂さは相も變らずお叱言の連發。sen'dub'e 疑ひもなく、きつと。Al neniu donu Dio tian patron! 神が何人にもかゝる父親を與へざらんことを! (こんな父親を持つたのがいゝ迷惑)。provi 試す。infan'et'oj 息子達に對する愛稱。haltu は「停れ」であるが、こゝでは勿論 haltigu la veturilon の意味である。

La maljunulo desaltis kaj kuris en drinkejon. Post duonhoru li revenis ebria kaj eksidis apud la filo.

—Kie estas nun Sonja?— demandis li.—Ĉu ŝi lernas ankoraŭ?

—Ne, en majo ŝi finis la kursojn kaj nun loĝas ĉe la bopatrino de Saŝa.

Ho, ho!—miris la maljunulo. Brava knabino, ŝi similas la fratojn. Ne ĝisvivis, Borenka, via patrino. Aŭskultu, Boris, ĉu ŝi... ŝi scias, kiel mi vivas?

【譯】老人は跳び下りて居酒屋へ駆け込んだ。半時間許りすると、酔われて歸つて來た、そして息子の側に腰を下した。

「ソーニャは今何處にある?」と彼は訊いた。「未だ學校かい?」

「いゝえ、あれは五月に學校を終へて、今はサーシヤの義母さんの許で暮してゐます。」

「おほ!」老人は驚いた。「偉い娘だ、あれも兄弟に似てゐるんだよ。ポーレンカ、お前のお母さんもあれに先立つてしまつた。あれ、……あれは俺がごんな風に暮してゐるか知つてゐるかな? え? ポーリス」

【註】 de'saltis=saltis de la veturilo. 跳び下りる。duon'horu 半時間。finis kursojn 課業を卒へた。esti gradigita は普通、高等程度の學校を「卒業する」場合に用ひられる。ĝis'vivi=vivi ĝis, postvivi ĝis, vivatingi. 或時迄生殘ること。

Boris ne respondis. Silente pasis kvin minutoj. La maljunulo ekploris, viŝis la vizaĝon per sia ĉifono kaj diris:

—Mi amas ŝin, Borenka! Ŝi ja estas mia sola filino, kaj por la maljunu'o ne ekzistas pli bona konsolo ol filineto. Mi dezirus vidi ŝin. Ĉu mi povus, Borenka.

—Kompreneble, ĉiam kiam vi volas.—Ĉu efektive?... Kaj ŝi?

—Ŝi mem serĉis vin por vidi vin.

—Jen estas infanoj! Veturigisto, ĉu ne vere?

【譯】ポーリスは答へなかつた。沈黙の中

に五分が過ぎた。老人はしやくり上げ、襪襦で顔を拭つて言つた。

「ポーリス、俺はあれが可愛いゝんだよ。あれは俺の一人娘だ。年寄には娘ほど慰めになるものはないからな。俺はあれに會ひたい。會へまいか、ポーレンカ?」

「勿論、會ひ度い時には何時でも會へますよ。」「本當かい?...そして彼女は?.....」

「彼女は父さんに會ひたがつて父さんを探してゐる位ですよ。」

「それでこそ子供達だ! なあ、馭者、さうぢやないか?」

【註】 konsolo 慰安。mi dezirus の假定法は se mi povus, se estas permeseble, 等々の條件文が省略されたものと見てよい。Kaj ŝi? =Kaj ŝi ankaŭ volas vidi min? 厭がりはいらないだらうか。

—Aranĝu tion, Borenka, mia kolombeto! Ŝi estas nun *délicatesse*, *consommé* kaj ĉio simila, nobela, kaj mi ne dezirus viziti ŝin en miaj abomenaj vestoj. Jen kion ni faros, Borenka: tri tagojn mi ne drinkos, por ke mia ruĝe-blua vizaĝo reordiĝu, poste mi venos al vi kaj vi pruntos al mi kostumon; mi min razos, tondigos miajn harojn, poste vi veturos al ŝi kaj ŝin venigos en vian hejmon. Konsentite?

—Bone. Veturigisto, haltu!

【譯】「ぢや、ポーレンカや、お前その世話をしてくれ。彼女は今ぢや身綺麗に、ぜいたくに暮して、萬事そんな風な、お上品にやつてゐるんだから、俺はこんな見すばらしい風體で會ひに行きたくない。だから俺は斯うして見よう、なあポーレンカ。俺の酒浸しの顔付が見直せる様に三日許り酒をやめる。そこで俺はお前の處へ行つて、お前から服を借りることにしよう。髪も刈り込むし、顔も剃つて行くさ。そしたらお前は出掛けてつて彼女をお前の家へ連れて來て呉れゝばいゝ。どうだ、承知か?」

「よござんす。」「馭者停めて呉れ。」

【註】 aranĝi 整へる。kolomb'eto 小鳩、息子に對する愛稱。délicatesse(佛)=delikateco. consommé(佛)=konsumita, perfekta. ĉio simila すべてが、そう云ふ調子の。nobela 貴族的な。Jen kion ni faros, 吾々のしようと思ふのは、こんな事だ。ruĝ'e'blua 赤く青い酒毒にあたつた顔付。re'ord'iĝu 元通りになる、再び整ふ。kostumo 衣裳。konsent'it'e? 同意されたか、承知か。

航空用語解 (其二)

陸軍航空兵少佐 加藤 正 美

次に航路と似た針路 Veturdirekto は一種の航路には相違ないが寧ろ同音「進路」なので方向を定めるため羅針盤(儀)の指示する路線のこさである。航路は通過する路で針路は進まんとする方向、だが通過したる路の總連續なば飛行経路 Perflugita vojo といふ。

空中旅行 Aervojaĝo といふのは航空機に乗つてなした旅行のこさ。

飛行家 Flugisto; Aviadisto. 前者は飛行機、航空船に搭乗するを職務とする人々後者は飛行機のみとき用ふ、兩者を總稱するときには Aerveturisto (航空家)と云ひ職務にあらずして單に搭乗する人には Aerveturanto (航空者、飛行者)を用う我陸軍にては是等に對し空中勤務者なる語あり。

飛行士 Licencitaflugisto とは航空法規の示す課程の檢定試験に合格し免狀を有する者にして免許者は凡て「士」なる文字を附す。

航空士 Licencitanavigisto は航空機に搭乗し旅客輸送に従事するを職務とし必ずしも操縦者にあらず。

操縦者 Piloto 航空機を自ら操縦する者

操縦士 Licencitapiloto

機關士 Licencitamotoristo (maŝinisto)

同乗者 Kunveturanto, Pasaĝero (旅客)

空中旅行 Aera vojaĝo, Aervojaĝo

航空船長 Aersipestro, Komandanto

航空學校 Aerveturada lernejo 目下陸軍にはなし。飛行學校 Aviada lernejo, Fluglernejo のみにして飛行機の操縦術、偵察術、射撃術、爆撃術、機關工術、空中航法等を教育す。

航空隊 Milita aerveturistaro とは氣球隊、Milita Aerostatistaro (Balonistaro) 及飛行隊 Milita aviadistaro の總稱で、航空船隊 Aersipistaro, Aerostatistaro (一般稱呼)を包含する場合もある我海軍では航空隊と稱してゐるが我陸軍は航空船を有せぬ故に航空隊なるものは目下は無いので(以前は此の名稱ありしも)飛行聯隊 Flugregimento と氣球隊だけである。氣球隊と航空船隊とは使用する器材の名

によて名付けられてゐるゆゑ同じ方法なれば飛行機隊 Aeroplanistaro と稱すべきであるが(以前此名の稱を用ゐし時ありき)今は飛行 Flugo なる動作から稱呼せられてゐる。

航空兵少佐 Majoro-aviadisto (飛行隊出身) Majoro-balonisto (氣球隊出身) 其他此例に従ふ。

飛行聯隊 Flugregimento 陸軍には目下八箇あり任務により偵察、戰團に分類せらる。

飛行大隊 Flugeskadro 艦隊の文字を用ふ

飛行中隊 (Flug)eskadrono 飛行機十機程を中隊とす、各國にて多少の差あり、數機隊列を作りたるを編隊 (Flug)grupo といふ最も普通には梯形雁行の隊次にて飛ぶ。

防空 Aera defendo は空中防衛 Enaera defendo と對空防禦 Kontraŭaera defendo とを總括して謂ふ前者は我飛行機を以て敵の飛行機等に對し曲技飛行 Akrobata flugado (Aerobatiko) を用ゐて空中戰 Aera batalo を開始し我が領空 Teritorio aera をば完全に制空 (Aer)konkero し時には遠く敵地へ襲撃を加へるために空襲 Aeratakado をなし征空 Aerinvado の目的を達す。對空防禦といふは地上より空中への挑戰にして其の主なるは敵の航空機なれば一名「對航空機防禦」Antiaerveturla defendo と稱すこれには對航空機射撃の高射砲 Antiaer(veturil)kanono と照空燈 Aerserĉlumo が主なる役目を盡すものなり。

空中射撃 Aera pafado は航空機上に搭載せる火器を以て行ふものにて空中戰の主體とす。

航空〔機用〕機關銃 Aermitralilo

航空機關砲 Aermitralilego 口徑 Kalibro 11 耗以上のものを砲と區別して呼ぶ。

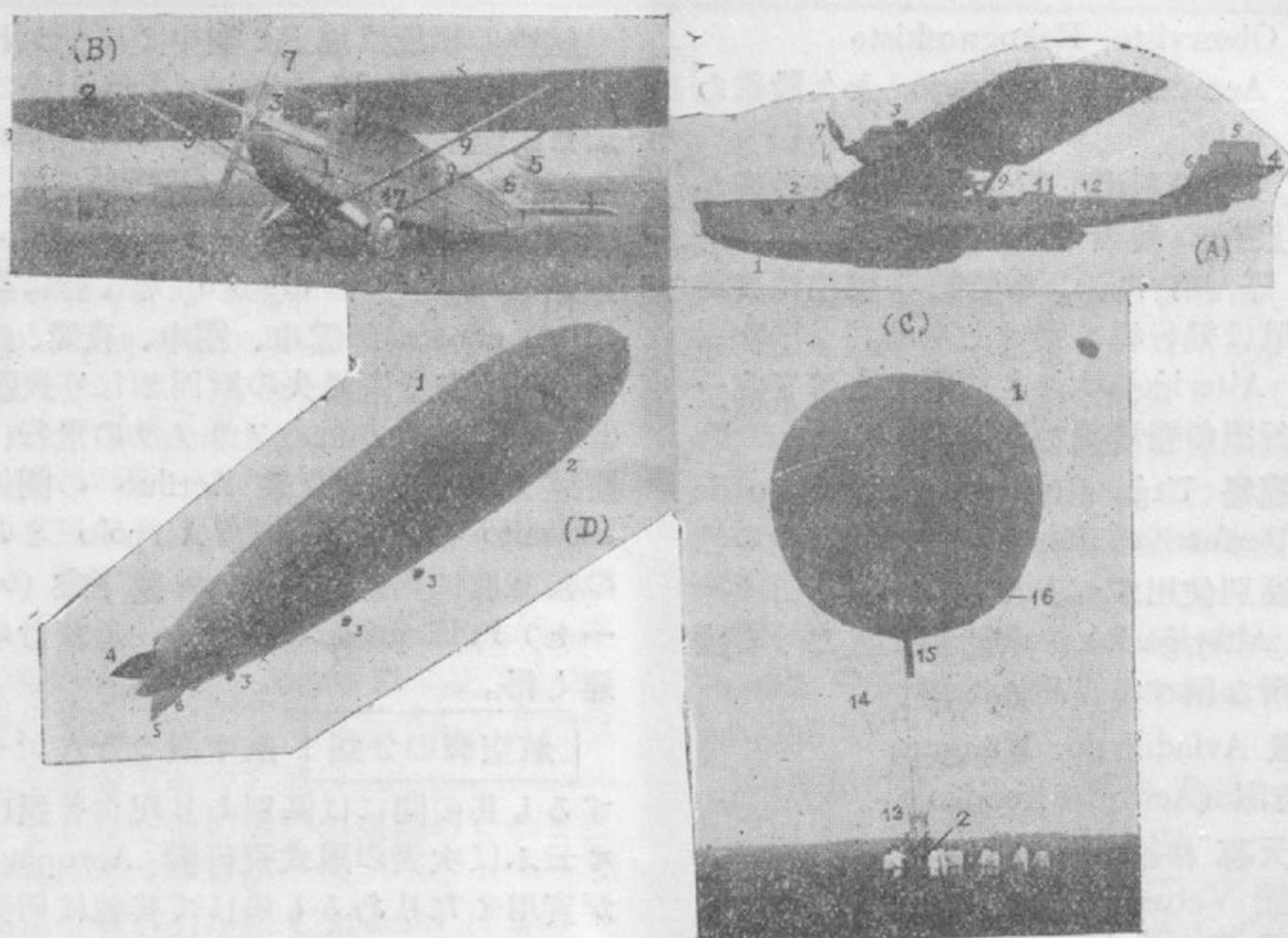
照準眼鏡 Celmonoklo

環形照準器 Ringcelilo

發光彈 Lumeska kuglo

曳煙彈 Fumtrena kuglo 空中にて彈道を明視することが出来る様にせる彈丸なり。

〔空中〕爆撃 Bombardado 航空機より地上に對する戰闘の重要手段にして爆彈 Bombo



【寫眞説明】

- (A) 飛行艇 Flugboato, Flugŝipo
 (B) 飛行機 Aviadilo, Aeroplano
 (C) 氣球(球型) Balono, Aerostato
 (D) 航空船 Aersipo
1. 氣囊 Gasujo (C) (D), 胴體 (B) 艇體 (A) Korpo
 2. 坐席房 Sidejo (A) (B), 吊籠 Korbego (C), 吊船 Gondolo (D)
 3. 發動機室 Motor(gondolo) (A) (B) (C)
 4. 昇降舵 Altendirektilo
 5. 方向舵 Direktilo, Flankendirektilo
 6. 垂直安定板(縦鰭) Vertikala stabilizilo, Kilsurfaco
 7. プロペラ Propulsoro, Antaŭenpelilo
 8. 主翼 [Ĉef]flugilo
 9. 翼柱(支柱) Flugilfosto, Subtenfosto
 10. 浮舟(フロート) Flosilo
 11. 國籍記號 Nacieca signo (J...日本ヲ示ス)
 12. 登録記號 [En]registrita signo (四文字ノ組合セ)
 13. 吊環 Korbringego
 14. 糸目(索具) Rigilaro
 15. 瓦斯口 Gasaperturo
 16. 覆網 Kovra retaĵo
 17. 降着車輪(滑走車輪) Kurrado

を投下して行ふ。故に爆撃は爆弾攻撃の意なり通常「空中」なる文字は略す。

爆弾投下 Bombĵetado 爆撃にあらず投下の動作其のものを示すときの語。

爆弾投下手 Bombĵetisto 投下に任ずる者。

爆撃手 Bombardisto 任務としては爆弾投下手なるも戦術上の必要事項を考察する仕事を併せ有する點異なり。

爆弾投下器(機) Bombĵetilo, (Bombardilo) 後者の文字は機構稍複雑のものに用ふ。

爆撃照準器 Bombardecelilo

爆撃機 Bombardaviadilo 爆撃用飛行機の稱、爆弾投下機と間違はざることを肝要なり。爆弾は將來戦には種々の効果を示すもの出現

す。其の内容により特殊の名稱あれば次に掲ぐ。

焼夷弾 Flambombo 命中すれば出火す。

發煙彈 Ekfumbombo

地雷彈 Minbombo 震動、破壊効果を表はす。

毒瓦斯彈 Toksa gasbombo 噴嚏(ツツ) (ternigebla), 催涙 (larmigebla), 窒息 (asfiksia), 糜爛 (bruluma) 等あり。

細菌彈 Bakteria bombo 命中せば細菌を撒布し病根を蔓延せしむコレラ、チフス、赤痢、マラリヤ等の如し。

空中寫眞(空航寫眞) Aerofoto[gafajo]

航空寫眞機 Aerokamero, Aerofotografilo

偵察者 Observisto, Rekognoskisto

飛行場 Aerodromo, Aviadejo 永久設備あり。

航空港(定期飛行場) Flughaveno 諸設備を有し空中旅行の發着場にて空中税關 Aeroganejo 等を有すること船舶の碇泊地と同じ以前は單に飛行場と稱せしなり。

着陸場 Alteriĝejo 永久設備を有せざる一時的の飛行機の發着地を云ふ。

不時着陸場 Urga alteriĝejo; Alteriĝejo de sekuro; Perfortita alteriĝejo 不時著陸の性質により區別使用すべきなり。

着陸地 Alteriĝa loko 著陸場と異なり著陸可能の場所を稱するに用ふる語。

{ 格納庫 Aviadilŝedo, Hangaro

{ 飛行機庫 (Aeroplan)remizo

飛行機天幕(格納天幕) Aviadiltendo

航空標識 Veturlumsigno, lumturo aera

地上標識 Termarko

{ T 字形着陸標識 Alteriĝa T

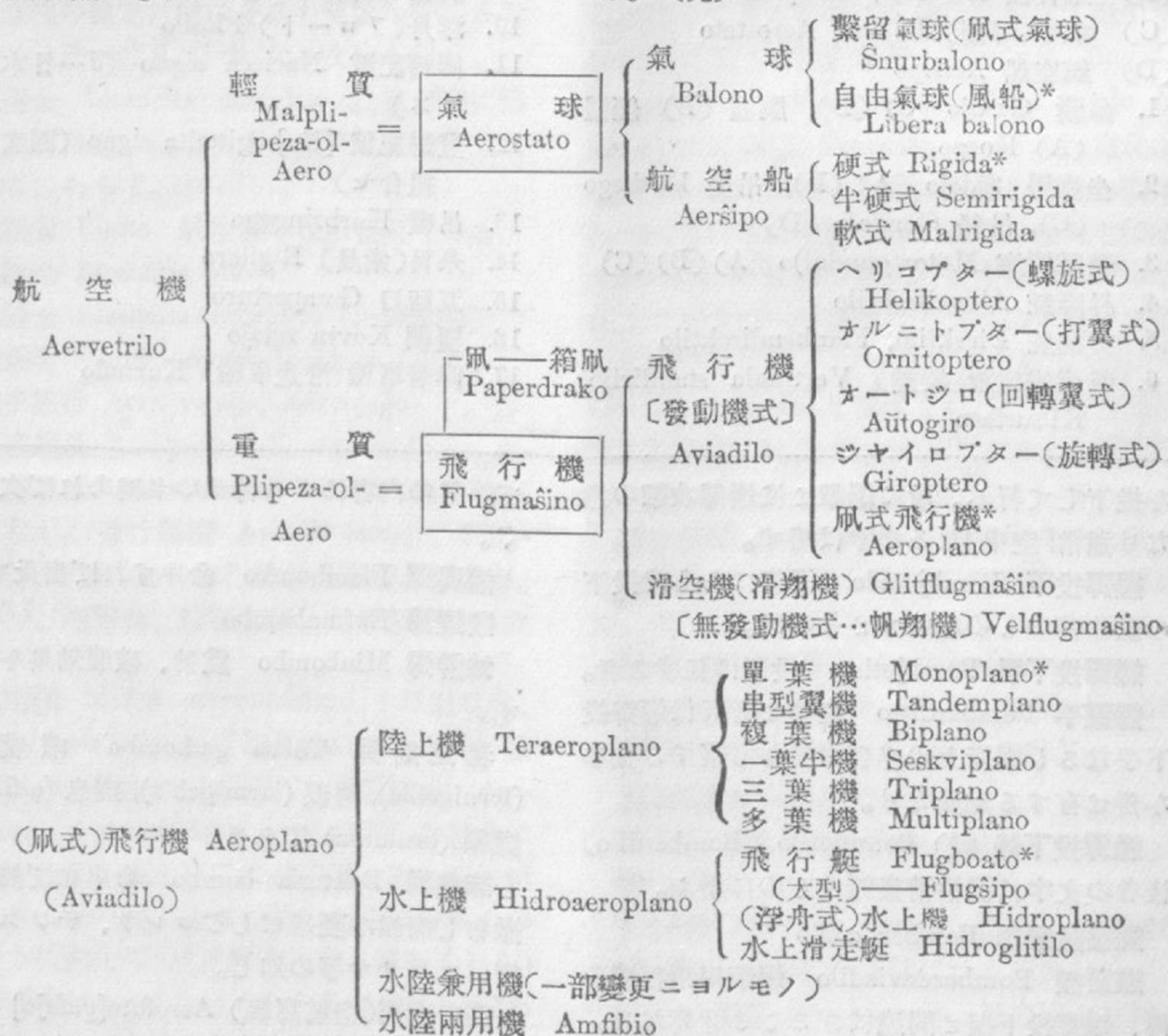
{ T 形布板(旗) Alteriĝa Kruĉtuko

風向標識 Signilo de ventdirekto

航空の事故は地上と空中とに分かれるも茲では**空中事故** Enaera akcidento の二三種を示せば**空中衝突** Kolizio enaera, **空中分解**(空中解体) Dispartigo enaera, **空中火災** Ekbrulo enaera, **機體故障** Difekto de aparato **發動機故障** Paneo de motoro 等で時に**空中眩惑** Iluzio enaera が雲中、霧中、夜間、逆太陽等のとき生じ操縦過失の原因となり**失速** Perdo de rapideco のためフラフラの飛行に陥入り**墜落** Falo す。又氣流 Aerfluo の關係で**突風** Ekvento に煽られ**風穴** A rpoŝo といふ空氣の稀薄部に飛込むことあり**落下傘**(パラシュート) Falsirmilo, Paraĉuto で救命の目的を達し得。

航空機の分類 航空機と吾人が一般に稱

するも其の間には區別あり現在普通に飛行機と云ふは次表の**汎式飛行機** Aeroplano だけが實用となりあるものにて其他は研究中又は過去の敗殘者となれるものなり。主なる部分の名稱は寫眞と對照せられたし、紙面に制限あれば其他の語につきては他日の機會に譲る。(完)



* 印ハ寫眞ニ示シアルモノ

新 刊 紹 介

大 島 義 夫

★**RUGA STELO**, A. Bogdanov, trad. el rusa lingvo kolektive sub redakto de N. Nekrasov K. S. Rublev. 12×18 cm. p. 166, eld. de Eldona fako kooperativa de SAT, Leipzig, Germanujo. 1929.

著者は二三年前に醫學實驗の犠牲となつて倒れた A. Bogdanov, 古い Marksisto の理論家として日本にも早くから紹介された人。本書は彼の描いた理想境 Marso 訪問記である。社會經濟の理論家であり醫學者であり且理想に燃えた文學者であつた彼の utopia romano は言うまでもなく他の多くの同種のものはその類を異にしている。

物質相互の牽引力を除く aparato によつて romano の主人公は火星を訪問する。この火星は見たまこの色が赤い許りでなく、そこに住む人々の生活もまたまつ赤なのである。地球より二倍も年をとつてゐる火星では封建時代資本主義時代を何千年か前に経験してしまつて社會主義の時代を生活している。すべての生産と消費とが意識的に統制され、壓迫と束縛に苦しんだ人間の精神が解放され、火星全體を打つて一丸とした平等と協働の生活を新來の地球人は経験する。

荒唐無稽な空想物語ではなくて、相當に科學的な一殊に社會進化の方面にあつて一推理の上に基ついて建てられた火星の生活は、われわれにまじめな考慮を促すものだ。

譯者は Nekrasov, Mihalski, Ivn 等ロシアの新進氣鋭の esp-istoj で流暢に譯されている。出版は SAT の指導の下にロシアでなされたもので、最近頭して來たロシア SEU の活躍の片鱗をうかがうに足るものである。

★**REVOLUCIO EN LA LINGVOSCIENCO**, de A. P. Andreev, 12×15 cm. p. 68. eld. de Eldona Fako de SAT, Leipzig, 1929.

ロシア學士會員 N. Marr 教授40年來の研究によつて提唱された Jafetida lingvoteorio の skizo. コーカサス、イベリア半島に残存する原始的言語形態の研究から出發して、インド・ヨーロッパ語系を中心とする從來の觀念主義的言語學を顛覆し、言語學を唯物主義によつて、基礎づけたのが Jafetida teorio である。言語を fetichismo の拜壇から下ろして、その發展を人類の生産行爲と結付けて理解し、あらゆる言語は何ら先驗的存在ではなく、

人間自身によつて作られたものとし、國際語の發生と發展とを理論づけている。Volapük の如く牧師でなく一科學者によつて生み出された esp. が人類の言語的努力の綜合的所産である以上その esp. を學ぶわれわれはこの Jafetida teorio によつて言語の本質論に接すべき義務がある。

★**SIVAĞI**, Lokshmisvar Sinha, 13×20 cm. p. 68. eld. Eldona Societo Esperanto, Stockholm, Svedujo, 1929.

17 世紀のインドの王様の葛藤を扱つた古典劇の平凡な解説。作者は若いインド人でスエデンに留學中 esp. を學び一年ほど勉強した後、esp. で自國や自國民のことを講演しながら現在スエデンを歩き廻つてゐる。本書は彼の第一の作である。

★**INTERNACIA KANTARO**, kolektitaj kaj tradukitaj de P. Bennemann, 12×17 cm. p. 101, eld. Ferdinand Hirt k. Sohn en Leipzig. 1929.

この歌集は音譜付きの tekstoj だけの二部になつてゐる、本書は tekstaro の方。55 の國々から集めた popolkanto 139, esp. その他の歌が 10. 實によく集まつてゐる。シエリアピンでお馴染のボルガの舟唄、日本の歌謡等古い版の約二倍近くの大増補が行はれて居る。まじめすぎる日本の Esp-istoj の持つべき本だ。

★**和エス辭典** 金井博治編、9×12 cm. p. 188, 定價1圓5錢、東京未來社出版、1929.

われわれはすでに千布氏の彪大な大成和エスを持ち、三高編の小辭典を持つてゐるが一は詳しいよう要領を得ず、他は餘りに簡單すぎ中庸を得た信頼に足る和エスの出現を切に要望していた。

こゝに金井氏新編の和エスが出た。しかしこの期待は全然裏切られたと言つていい。詳しくは岡本氏の言を見れば解るが、先づ體裁が全然「新撰和エス」の完全なる模倣であるのでいやになる。開けば毎頁に誤字があり、所々日本式エス語にぶつかる。一體に語の撰擇配列が當を得てゐない。本書を見て特に和エスに於て一語一譯の直譯主義は全然捨られなければならないことを切に感じる。この書によつてわれわれは更によりよい和エスの出現により大きな期待を持たされた。

Notoj pri l' Bibliaj Vortoj

(5)

宇都宮 正

“Kaj Noa komencis *terkultivan* laboron, kaj plantis vinbergardenon.” (Genezo 9²⁰)

“Sed iom el la malriĉuloj de la lando la estro de la korpogardistoj restigis, ke ili estu vinberistoj kaj *terkultivistoj*.” (II. Reĝoj 25¹²)

“Super la plenumantoj de la laboroj sur la kampo, super la *terkultivo*, estis Ezri, filo de Kelub.” (I. Kroniko 27²⁶)

“Konsternitaj estas la plugistoj, plorĝemas la *vinberkultivistoj*, pro la tritiko kaj la hordeo, pro la pereco de la rikolto sur la kampo.”

(Joel 1¹¹)

“Amos respondis al Amaja: Mi ne estas profeto, nek filo de profeto, mi estas nur paŝtisto, kaj mi *kultivas* sikomorojn.”

(Amos 7¹⁴)

La uzado de ĉi tiu vorto estas ankaŭ trovebla en la revizita eldono de N. T. kio estas sub la influo de Zamenhofa M. T.

“Mi estas la vera vinberarbo, kaj mia Patro estas la *kultivisto*.” (Johano 15¹)

En la malnova traduko de N. T. oni uzis la vorton ‘kulturisto’ anstataŭ ‘kultivisto’.

En la Sankta Biblio mi vidas la vorton ‘kulturi’ nur unufoje uzita.

“Fieraj okuloj kaj aroganta koro, *kulturaĵo* de malvirtuloj, estas peko.”

(La Sentencoj 21⁴)

Certe diskuteble estas enkonduki la vorton ‘kultivi’ apud ‘kulturi’ kiu estas jam tre multe kaj vaste uzita en la unua senco laŭ Dro Kabe. Ekzemploj.

“La kreskaĵo (terpomo) ruinigos ĉiujn landojn, kiuj ĝin kulturas.”

(Unua Legolibro, Dro Kabe, p. 44)

“Esperantismo kulturas ĝuste la alian kampon, nome tion, kio unuigas.”

(Dro E. Privat, Esperanto Julio-Aŭg. 1929)

Sed tamen mi persone opinias ke estas bone uzi la vorton ‘kultivi’ apud ‘kulturi’ respektive en ĉiu propra senco por esprimi klare la diferencon de signifo kiel oni enkondukis vorton ‘heziti’ apud ‘ŝanceliĝi’, ĉar dezirinde estas ke unu vorto ne havu multon da sencoj.

speciale ĉe la vorto kiu estas plej ofte uzata. Jen aŭskultu kion diras Dro W. E. Collinson, nia eminenta lingvisto.

“Netakseble aprobinda estas la libereco, kiun ni ĝuas en la vortkombinado kaj derivado — sed kelkfoje mi iomete bedaŭris la mankon de pli delikate nuancigitaj sinonimoj, kiuj permesus la eviton de kelkaj ĝenantaj ripetadoj.”

(La Homa Lingvo, p. 5)

7. Iŝmaelidoj.

イシュマエル人と譯す。

Ĝis nun mi renkontis tri formojn de ĉi tiu vorto: Iŝmaelidoj, Izmaelidoj kaj Ismaelitoj. El tri formoj rekomendinda estas la formo ‘Iŝmaelido’ kiu estas derivita el ‘Iŝmael’. (Angle Ishmaelite, germane Ismaelit).

“Kaj la anĝelo de la Eternulo diris al ŝi: Jen vi estas graveda, kaj vi naskos filon; kaj vi donos al li la nomon *Iŝmael*, ĉar la Eternulo aŭdis vian suferon.” (Genezo 16¹¹)

“Kiam ili sidigis, por manĝi panon, ili levis siajn okulojn, kaj ekvidis, ke jen karavano da *Iŝmaelidoj* venas el Gilead, kaj iliaj kameloj portas aromaĵojn kaj balzamon kaj mirhon, ili iras, direktante sin al Egiptujo.”

(Genezo 37²⁵)

Forĵetita estas ‘Izmaelidoj’ ĉe l’ korekto. Do en la Hachette-Genezo oni legas la suprecititan version jene: kaj ekvidis, ke jen karavano da *Izmaelidoj* venas el Gilead, Tiu ĉi formo sin trovas en la Nova Vortaro de S-ro Okamoto.

Trian formon mi trovis en ‘Dio unu por ĉiuj’.

“Estis tie kristanoj, abisenoj, hindoj, lamaoj, *ismaelitoj* kaj fajradorantoj.” (p. 8)

En sia Novial Prof. Jespersen ankaŭ enkondukis la sufikson ‘Ido’, kiun jam Esperanto uzas. Por referenco mi citos iom el lia libro.

“—IDE descendant, originally taken from Greek Atreide, son of Atreus, Peleide, extended in modern times to Napoleonide, etc. We may say regide (—o, —a) for one of royal birth, and also Semide, Israelide,.....”

(An International Language, p. 136)

Internacia Teknika Kongreso

KUNITARO TAKAHŜI

Kvankam tiu ĉi temo, pri kiu ni nun traktas, ŝajnas ne concerni rekte al la inĝenieraj kaj industriaj aferoj, ni tamen rigardas ĝin tre grava kaj urĝa, konsiderante la ĝeneralan tendencon de la nuna mondo.

Kiam popoloj el diversaj landoj kolektiĝas, kie estas permesataj nur unu aŭ du naciaj lingvoj, tiuj, kies patralingvoj estas elektitaj, povas ekskluzive ĝui ĉiun oportunecon kaj avantaĝon, dum la aliaj, al kiuj estas fremdaj la elektitaj lingvoj, estas en malfavora situacio.

Tio estas ne nur pro la malfacilo, kiun oni spertas parolante pruntitajn lingvojn sed precipe pro la spirita doloro kaŭzita de perdo de la privilegio uzi sian propran patralingvon.

Dirante tiel ni sincere esperas, ke niaj vortoj estos akceptataj kun elkora simpatio de tiuj, kiuj estas en tia favora situacio, kia ili neniel bezonas zorgi pri la lingva demando.

La sola rimedo por liberigi nin de tiu partieco, kiu nalhelpas al akcelado de internacia amikeco, ni konstatas, alpreni Esperanton kiel helplingvon, kiu ne nur karakterizas sin absolute neŭtrala, sed plie estas tre simpla, klara kaj fleksebla, kaj tial pli taŭga, ol iu ajn nacilingvo por esprimi ĉian delikatan nuancon de pensoj.

Se la legendo pri la konfuziĝo de lingvoj ĉe la Babela turo estas vera, tiam sekvas, ke la homaro suferadis tiun konfuziĝon pli ol 4,000 jarojn ĝis la fino de la pasinta jarcento, kiam Esperanto venis en la mondon.

Tiu nova lingvo Esperanto estas do destinita, ni povas konstati sen fanfaroni, alporti al la homaro novan mondon, por ke ĝi estu savata de la lingva malfacilo.

La terglobo kuntiriĝas rimarkeble dank' al la lastatempa disvolviĝo de internaciaj komunikadoj. Supozite, ke la radio progresos post ne longe ĝis tia grado, kia oni povas facile aŭdi eĉ siajn antipodojn, la unua demando estos, kiamaniere la anoncanto elparolos la simbolon de sia stacio, kaj per kiu lingvo li disaŭdigas siajn informojn internacie.

Evidente ne per iu ajn nacilingvo, sed per Esperanto sola. Ni ne povas preterlasi tie ĉi, krom la supre menciitajn esencojn de Esperanto, vortojn de D-ro Privat, ke la klara kaj neerarigebla elparolado de Esperanto farigas ĝin la plej taŭga por la radio.

Tiel same por internaciaj kongresoj, kiujn oni povas efektiviĝi laŭideale ĝian celon.

Pri la rilatoj de Esperanto al internaciaj aferoj la tagoj de diskuto jam forpasis, kaj ni nun estas en la tempo de praktiko.

Jen la plej novaj ekzemploj: Okaze de la 3-a kongreso de la Monda Federacio de Edukadoj okazinta julio-aŭguston en Genevo, Esperanto estis uzata kiel tradukilo de iuj fakoj kaj en kunsidoj, kie du aŭ pli da fakoj kunsidis, kaj ankaŭ en la kongreso de la Nova Edukado Frataro okazinta aŭguston en Helsingör (Danlando), Esperantaj tradukoj estis aranĝitaj por gravaj paroladoj.

Parolante pri Japanujo tiuj traktatoj publikigitaj internacie per Esperanto estas ĝis nun 22 de kuracistoj, 17 de sciencistoj, po 1 de leĝistoj kaj inĝenieroj...entute 41.

Speciale notinde estas, ke S-ro Osaka, ŝtata fervoja inĝeniero kaj nia kolego, prezentis al la kongreso sian traktaton verkitan Esperante kaj resumitan angle, pri la nova pasaĝervagono de Japanujo. Li estas frapanta ekzemplo de Esperantisto utiliginta sin per Esperanto, vojaĝante tra la mondo por studi sian specialecon.

La gvidlibro "Japanlando" verkita Esperante kaj eldonita de la Ŝtata Fervoja Departemento bonege plenumis sian rolon de internacia propagando, nekompareble kun tiu verkita alilingve, kies propaganda sfero estas limigita.

La proponoj, kiujn ni prezentis lastatempe al la kongreso estas jene:

1) Enkonduki Esperanton en estontaj internaciaj Teknikaj Kongresoj je la sama vico kiel iu ajn nacilingvo,

2) Akceli la kompiladon de Esperanta Teknika Vortaro, pri kiu nun okupas sin la "Esperantista Akademio" en Parizo,

3) Eldoni Esperante la resumon de traktatoj kaj raportoj de la kongreso. Ni sincere deziras, ke la inĝenieraj kaj industriaj korporacioj kaj ankaŭ individuoj tra la mondo aprobos unuanime ian movadon, precipe gravigante la egalan oportunecon por ĉiuj nacioj, dank' al kiu sola ni povos akceli laŭideale internacian amikecon kaj reciprokan interkompreniĝadon, tiamaniere dediĉante grandmezuro al la bono de la homaro.

SCIENCA PAROLEJO

INO, VIRO, KAJ INTERSEKSO (II)

Hiroshi Ohshima

Profesoro de Tokia Imperia Universitato

(aŭtozom- grupoj)	(X-kromo- zomoj)	(sekso)	$\left(\frac{\text{aŭtozomgrupoj}}{\text{X-kromozomoj}} \right)$
3	+	1	= superviro. $3/1=3$
2	+	3	= supervirino. $2/3=0.667$

Nek interseksoj nek superseksoj havas naskokapablon.

Do oni povas aranĝi tiujn diversspecajn seksecojn laŭ la grado de forto de X-kromozomo, aŭ laŭ la emo de ina sekseco: supervirino (0.667), normala ino (1), intersekso (1.5), normala viro (2), superviro (3).

D-ro Goldschmidt, granda germana biologo, kiu vizitis nian landon ĵus antaŭ kelkaj semajnoj por la tria fojo, kaj kies lekcioj oni aŭskultis ankaŭ en Tokio, studadas interseksecon de l' noktopapilio, *Lymantria dispar*. La viro estas malpli granda kaj brunkola, dum la ino havas pligrandajn flugilojn, kies koloro estas blanketa. Sed rilate al la kromozoma komplekso troviĝas neniu videbla diferenco inter la seksoj. Ambaŭsekse okazas 62 kromozomoj. Goldschmidt prenis geografiajn rasojn de *Lymantria* el diversaj regionoj de la tuta mondo, kaj sukcesis tiel, ke per iu difinita kombinado de malsamaj rasoj li povas krei interseksojn de iu ajn grado. Ekzemple, inter ino de unu "forta" raso de japanujo kaj viro de unu "malforta" eŭropa raso, aperas idoj en normala seksa proporcio, sed se oni prenas la reciprokan kombinaĵon, t.e., ino de "malforta" eŭropulo per viro de "forta" japano, naskas idojn, kies 50 procento estas normalaj viroj kaj alia 50 procento estas interseksoj. Goldschmidt klarigas la fenomenon pere de la hipotezo, ke sintrovas en la seksĉeloj du kontraŭstarantaj substancoj, eble fermentoj; unu estas la faktoro por ineco, dum la alia por vireco. Donu sufiĉe da kvanta diferenco inter ili, aperas aŭ ino aŭ viro, sed kiam la du faktoroj ekvilibras per preskaŭ egala kvanto, tiam aperas intersekso. La sekvantaj diagramoj klarigas la situacion (tekstobildo 2). Oni memoru, ke noktopapilio apartenas al la grupo, en kiu la ino estas heterozigota kaj la viro estas homozigota; nur unu vira faktoro sintrovas en la ina sekso, sed ĝi estas duobla en la vira sekso. La longeco de l'

super'viro 超雄。

super'vir'ino 超雌。

nasko'kapablo 生殖

能力。 *Lymantria*

dispar マヒマヒ蛾、

ブランコケムシ蛾。

brun'kolora 褐色の。

blank'eta 白っぽい。

geografia raso 地方

的品種。 kombin'ado

組合せ。 proporcio

割合。 reciproka

kombin'ado 雌雄を

反對にまつた組合

せの交配。 hipotezo

假説。 kontraŭ'star'

anta 相拮抗する。

fermento 酵素。

kvanta 量の。

diagramo 圖表。

rekt'angul'ajo 矩形。

unu'o 單位。mezuri

量る。no'u 注意せ

よ。direkto de sago

矢の方向。limo 境

堺。mez'punkto 中

心點。koincidi 合致

する。profesor'ino

婦人の大學教授。

tri'kolora vir'kato

三毛牡猫。testud'-

ŝel'kolora 鼈甲模様

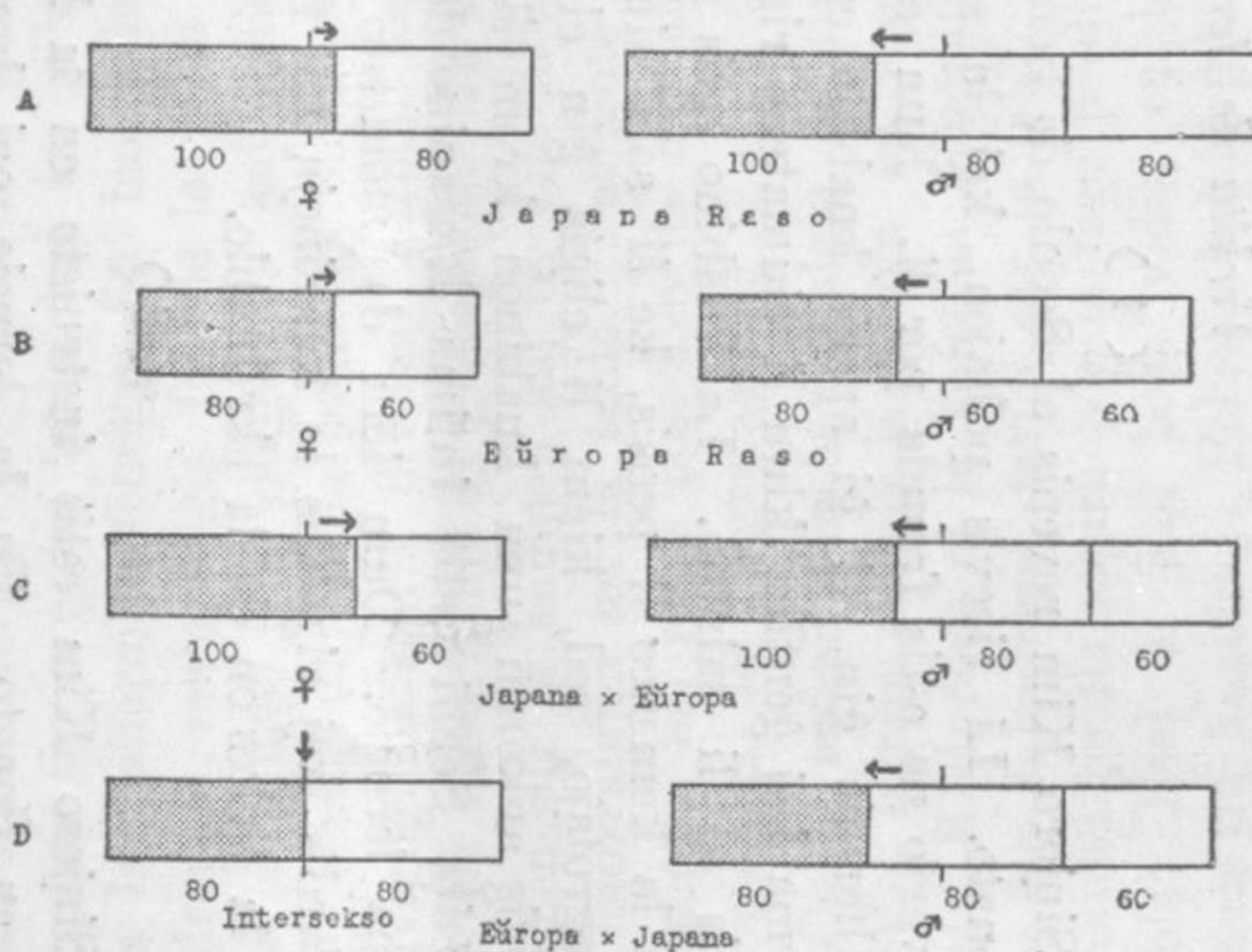
の。moderna knab'-

ino 英語で "modern

girl"。ia'grade 或る

程度に於て。

rektangulaĵoj signifas la "forton" de l' seksa faktoro. Tiu japana raso havas 100 unuojn da ineca faktoro (reprezentanta per malhela parto en la diagramo) kaj 80 unuojn da vireca faktoro (blanka parto en la diagramo).



En eŭropa raso, kiu estas malpli forta en sekseco, la ineca faktoro eble mezuras je 80 unuoj, kaj la vireca je nur 60 unuoj. Plue oni supozu, ke la ineca faktoro ĉiam herede transiras al la ido nur per la ovo, sed ne per la spermio. En la diagramoj oni notu la direkton de sago: ĝi signifas la pozicion de l' limo de duseksaj faktoroj kompare al la mezpunkto de la tuta longeco de la rektangulaĵo. Se la sago direktiĝas dekstren, tio signifas inecon (A-C, maldekstraj diagramoj), se maldekstren, la individuo estas vira (A-D, dekstraj diagramoj). Kiam eŭropa ino pariĝas kun japana viro, la ineca kombinado montras, ke la limo kaj mezpunkto koincidas: tio estas intesekso (D, maldekstra diagramo).

Mi kaj F-ino Bonnevie, sveda profesorino, kredas, ke la malofta apero de trikolora (testudŝelkolora) virkato povas esti klarigita pere de l' fenomeno de intersekso.

Mi ne scias, ĉu ankaŭ en la homoj okazus interseksuloj. Eble la viro kun iom da virineca karaktero, kaj la virino kun iomego da vireco, tielnomata "moderna knabino" povas esti iagrade interseksaj. (Fino)

FOTOGRAFAJO

Verkita de Jengtajk Tern

(1)

Sinjoro Kim revenis al Seoulo de Songto antaŭ unu monato. Li ricevis poŝtaĵon, kaj la skribstilo sur la koverto ne estis fremda por li. Kun afabla rideto li malfermis ĝin, el ĝi aperis knabino en la sama pozo. Ĉarma kaj ĝentila, kiun li ĉiumatene rigardis kiam ŝi faris al li saluton. La knabino estis nomita Poksun. En la komenco li pensis, ke ŝi sola sin trovos en la fotografo, sed, kiam li eligis ĝin el la koverto, li trovis ankoraŭ unu knabinon krom ŝi. Kaj la alia nomita Senhi estis intima klasanino de Poksun en la sama lernejo. Dum iom da momento kun rideto li rigardis kaj rigardis la knabinojn kaj fine ilin enmetis en la tirkeston de la skribtablo.

(2)

Sinjoro Kim estis instruisto en la lernejo elementa N. en Songto. En la lernejo oni havis du klasojn, viran kaj virinan. Plimulte li sin okupadis en la lasta klaso, kaj la plej maljuna estis dekkvarjara el la lernantinoj. Ili ĉiuj estis tre junaj kaj pliparte ĝentilaj kaj talentaj.

Amante muzikon de sia nakskiĝo li kun fervoro instruis al ili kanti. Kaj preskaŭ ĉiutage li rakontis al

„Vi ludu ĝin la unua, mia kara.“

Tiun ĉi fojon maltrankviligis la edzo. Dum longa momento ilin regis la peza, plumba silento.

„Inter ni vi ne bezonas ceremonion por ludi. Ludu kaj ne estu tiel hontema antaŭ mi.“ tiel li ŝin drolotis, sed ial lia voĉo iom tremis.

„Mi? Mi ne povas ĝin ludi.“ murmuretante per moskita voĉo, la ideala edzino havis flamuĝon sur la vangoj, kaj en la okuloj ekfluetigis ĉe guteto da larmoj.

„Ĉu vi ne scias kiel ludi?“ diris la edzo kun memfido, „Vidu, mi ludos.“

Li sidis antaŭ la piano, sed ankaŭ li ne scipovis ĝin ludi. Ne povinte sonigi veran tonon, li nur disfrapis malorde sur la klavaro tien kaj ĉi tien. Vidinte tion, la ideala edzino povis iom sin trankviligi, kaj iom poste ŝi kun koketema voĉo diris al li.

„Brave! Vi ja ĝin bone ludas, mia kara.“

— Fino —

ili belajn historiojn, kiam li finis la kurson. Ili lernis bone kaj aŭdis lin atente, kaj ili lin amis kaj kore respektis. Kaj jen oni facile trovis, ke ĉe li ĉiam, kiel kutime, amasiĝis la knabin j lin aŭdi.

Ven's la libertempo somera longe daŭra. El ili multaj ne revenis al la hejmoj kaj kiel antaŭe ĉe li kunsidis por ludi kaj aŭdi. Por ili tio estis la plej bona rimedo pasigi tempon kaj forigi someran varmecon. Pro tio la juna instruisto ankaŭ devis restadi en la lernejo eĉ dum la libertempo, tute forgesinte la familion lin atendi.

El ili Poksun estis bona, ĝentla kaj bela, li ankaŭ pensis, ke ŝi havis tre bonan koron. Ili ĉiuj lin amis, sed ŝi lin amis plej respektis, kaj ŝi ĉiam zorgis pri la vestoj kaj manĝoj de la ŝatinda instruisto. Kvankam ŝi neniam diris pri li, tamen li ŝin komprenis, ke ŝi lin respektis kun plena koro.

Sed venis la tempo, kaj la juna instruisto devis forlasi la lernejon, ĉar unue li volis pli lerni kaj due io kontraŭema okazis inter li kaj la lernejestro. Kiam li paŝis al la loĝejo, li diris al Poksun, ke li devis forlasi la lernejon baldaŭ. Kaj post du horoj li senkonscie sin direktis al la lernejo; survoje li trovis unu knabinon, kiu staris apogante sur akacio en la angulo de la lerneja ludejo. Li jam bone vidis de malproksime, kiu ŝi estas. Kiam li rapide proksimiĝis al ŝi, li trovis, ke sin turnis al alia flanko kaj ploretis mallaŭte. Si estis

bona bela ĉarma Poksun, ŝi ploretis pro tio, ke ŝi baldaŭ perdos karan instruiston.

(3)

En la sama printempo sinjoro Kim forveturis al Tokio, la ĉefurbo de Japanujo, por pli lerni. Li loĝis sola en la pensiono sidanta ĉe la okcidenta angulo de la alta normala lernejo en Ocuka de la samurbo. Li sidis apogante sin sur la tablo kaj ion silente enpensadis. Tra la malfermita fenestro lin banis la sunbrilo, kiu malrapide malaperiĝis for de la vasta kampo Musaŝi. Sur la kampo jam vidiĝis tie kaj ĉi tie aŭtunaj folioj ruĝe ebruiĝintaj de la sunradio, ĉirkaŭe de la vojo tute senvigliginte staris diversaj herboj, kaj en la farmoj flaviĝis maturiĝinta la grenspikoj. Li rigardis malproksimen sur la kampon kaj tre ofte fiksis la okulojn sur la fotografajon sur la tablo. Ferminte okulojn li ion pripensis, kaj refoje post iom da momento li ilin malfermis fiksi la fotografajon.

Ĉu li suferis pro la nostalgio, de kiam li alvenis al Tok'o, li nur pasigis la horojn en sopirado. Por sin distri li elprenis el la kofro la fotografajon de Poksun kaj ĝin enkadrigis starigi sur la tablo. (sed pro tio pli profundigis lia sopiro por la tago perdita kaj neforgebla) Kiel ni jam bone vidis, en la fotografajo sin trovis du knabinoj: Poksun kaj Senhi. Poksun staris kun vizaĝo bela kaj ĉarma, kun buŝo kviete fermita

海外報道

伊藤己酉三

Marie Hankel 女史の逝去

我等の Pionirino Sino Marie Hankel は 1929 年 12 月 14 日夜突然八十五歳を以て死去、19 日茶毘に付す、女史のエス界に對する功績は茲に述べるの必要はない。謹んで弔意を表する。

Andreo Ĉe 氏の講習

エストニア・タリン市では前年の成功に鑑み再び講習を開くべく Esp-Asocio de Estonio は Andreo Ĉe 氏を招いた。市内には各所に大きな afiŝo を下げ、新聞廣告ピラ配布等大いに宣傳した結果無料の試験的授業には約 500 名の参加者あり、一週四回の講習には 200 名以上の参加者があつたので二組に分ち、授業をした。

講習生の多数は學生であつたが、事務員、教師、商人等も相當あつた。タリン市の中央郵便局長 Ruubel 氏は Esp. に興味を持ち、今度 Ĉe 氏が再びエストニアに来る時には何處の郵便局でも Esp. の掲示を見るであらうと約束した。

Ĉe 氏の講習と同時に Narva 及 Voru に於ても講習が開かれ何れも Ĉe-metodo が採用された。

和蘭に於ても同様 Ĉe 氏を招き、Rotterdam, Utrecht, Dordrecht, Hago, Amsterdam に於て講演會を催し、その後講習を開いたが、Rotterdam にては満員 Utrecht にては多数の講習生を得、Dordrecht にては 125 名の講習生、Hago にては 300 名の講堂に 400 名の聴衆あり 200 名以上の講習生あり、Amsterdam も同様であつた。

エスペラントで講演旅行

印度タゴール學校教師 Sinha 氏は昨春以來瑞典の各地を巡遊してゐるが、Andreo Ĉe, T. Morariu 兩氏の講習により急に一般のエスペラント熱高まり Sinha 氏は常に講演にはエスペラントを用ひて大いにその實用性を示し、到る所多大の興味を喚起してゐる。Ĉe,

Morariu, Sinha 三氏の瑞典エス界に對する功績は賞讃に値する。

各國報道

オーストリア

Wien のエス會 Danubio は再び盛となり 1000 部の圖書を有してゐる。11 月 11 日 Humora Vespero を催し S-ano Schicketanz, S-ino Stanka, S-ano Cech の話があつた例會は毎週月曜日 20 時より Kafejo Elshof にて開かれる。

ブラジル

Florianapolis に於ては gimnazia esperantista rondeto なる會が生れた。この會はブラジルの學生間にエスペラントを宣傳するのを目的としてゐる。

ブルガリヤ

Ruse にてはエス會 Solidareco は Verda semajno を催し、ポスター掲示、Vieno kiel eŭropa centro de kulturo kaj esp. なる題の講演が行はれた。12 月 1 日には市民、警官に對する三ヶ月間の講習開かれた。

Lom にて講習、参加者 65 名。

Stavimaka にても講習、参加者 45 名。

チエコスロバキヤ

Dolni Kounice にて講習開かる。最初に UEA 代表 Ĉervinka 氏の國際語の意義に就ての講演あり、次に會場たる學校の校長の激勵の辭があつた。

Bad Schlag の驛の近くに獨逸語でエスペラントを使へと書いた大きな立札が立てられてある Bad Schlag は温泉地でありよい宣傳方法である。

Gablonza. N., Trebič, Prostejov に講習あり。

デンマーク

Hölbak にてエス會長 Hansen 氏 Ĉe-metodo にて講習開始、第五課より講習生 15 名より 33 名に増加した。11 月 18 日 festvespero を行催し、150 名の出席者あり、盲人同志 S-anino A. Melchior の「エスペラント盲人」に就いて講演があつた。

フランス

Lyon 市會に於て Reynier 氏は市の外國語講習中にエスペラントも採用するべしと提案したが、この案は通過した。

Paris. 11月12日 Pariza Grupo は propaganda faro の再開を祝して晚餐會を催した。著名同志の外に、學士院會員 Cotton, Bertrand 兩氏、飛行界の先驅者 Archdeacon, Farman 兩氏、バストール研究所の de Courmelles, Mouton 氏等が招待せられ、何れもエスペラントに好意を示した。

Vienne. 10月29日 Cart 教授は大戰後の歐洲に於ける國語の増加及エスペラントの必要に就き興味ある講演をなし、その結果講習が開かれた。Cart 教授は11月12日 S-te. Etienne に於ても同じ講演をなした。

Nice. Aeorges Avril 氏はエスペラントに関する講演をなし700名の聴衆を得た。その結果講習開かれ、又 L'Eclaireur de Nice 紙は倫敦に於ける佛蘭西商業會議所前會頭 Guéritte 氏の「エスペラントと商業」なる記事を二段抜で掲載した。

ドイツ

Chemnitz. エスペラント會では Frankenberg へ遠足をなした。Frankenberg は idisto が多數居る爲である。10月12日國民教育委員會の主催により Wicke 教授は「我々と Zamenhof, 義務と理想」と題して演説をなし多數の聴衆を得た。

Dresden. 11月15日例會に於て第19回ドイツエスペラント大會に對する準備につき報告があつた。この大會には Mozart の歌劇 Bastien kaj Bastienne が餘興として演ぜられる筈である。

Tilsit. 11月26日労働者其他の爲に女學校に於て講習始まる、参加者18名。

Düsseldorf. 11月10日 Restoracio Riesenburg にて會合を開く、60名の出席者あり、商業學校にては講習始まり 35名の参加者を得た。

Flensburg. 市立職業學校の教室に於て講習開かれ参加者12名あり、Jung, Wingen の教科書を用ふ。F-ino Jacobs は Hresum に於てエスペラントに関する講演をなし8名の講習生を得た。盲人同志 S-ro Oldschwager が指導する。

Konstanz. Benders 氏は8月11日及 Singen に於て11月7日エスペラントに就いての講演を獨逸シンヂケート協會の地方代表者の前でなし、講習を催す Benders 氏は常に展覽會

材料を携帯し、蓄音機を用ひて講演をしてゐる。

Schmiedeberg i. Rsg. Propagandvespero を催し多大の注意を惹いた。市長、教師等多數の出席者あり、二講習開かる参加者42名。

Nürnberg. 教師 Wegerle 氏は Ĉe-metodo によつて10名の講習生を指導してゐる。本年3月16日には Budapesto の同志が訪れ映畫館に於てハンガリーの映畫を公開してエスペラントで説明をする筈である。Nürnberger Verkehrsbüro G. m. b. H. は無料にて Nürnberg 案内記を配布する。

ハンガリー

Budapest. 11月17日カトリック、エスペラント會は Gloria 映畫館に於て propagandfeston を催し、代議士 Frühwirth 氏、幹事長 Lukács 氏の演説、S. Szendrey 夫人の獨唱、合唱等があり其他萬國大會の filmo を映寫した。11月25日 Hungara Esp-Societo の Budapest 會では amuza vespero を催し、暗誦舞踊音樂等で楽しんだ。

Debrecen. 二ヶ月の講習は大成功に終つた。終了日には Julio Baghy も出席して雄辯を以て初學者を熱狂せしめた。neesperantistoj の客も今春の講習には出席するを約束した。

イタリー

Brescia. 初等中等講習が Fašista Instituto de Kulturo 及 Regio Instituto Magistrale に於て開かれ115名の参加者を得た。Brescia 市の教育部では市の教員にエスペラントを學ぶ様勧告した。

Roma. Roma Esp-Grupo は毎木曜日會合を開きイタリーの主要都市の繪葉書にエスペラント文を付して發行してゐる。

イスランド

Reykjavik. 11月初旬、書店の飾窓にエスペラント書及雜誌を陳列し、講習を開いた。

ユーゴスラヴィヤ

Ljubljana. 地方協議會を開きエス運動に關し協議をなす。政治的方面に運動する事、講習を開く事、radio を利用する事等の決議をなす。10月8日38名に對し講習をなす。

ポーランド

Bedzin. 11月23日 Zamenhofa festo を催す、多數の neesperantisto も出席し大いに宣傳をした。

Wilno. 11月16日 Vilna Esperantista Rondo Akademia は大學内に於て Esp. vespero を催し、講演、暗誦、唱歌等で宣傳をなす。

道 報 地 内

盛大なりし各地のザメンホフ誕生祭

——JFAK (臺北) ではラヂオを通してエスペ란ティストの夕べ——

東京

★學會主催12月會話會は Argenta Kunsido と合併してザメンホフ祭として丸の内鐵道俱樂部にて催された。当日は出席者60名の盛況であつた。話者は東大及九大の教授たる大島廣博士の興味ある「雌、雄、間性」についての話であつた。博士が流暢なエス語でこの専門の話の順序よく我々俗人に判りやすく説明されたのは敬服の至であつた。その内容は本號に掲載されてゐる故御覽下さい。次いで永井氏のマンドリン獨奏、清見陸郎氏の「會話會に関する註文」についての話等あり Tagigo を合唱して散會。猶當日は Festo de Libroj の日とて學會から洋書を少しもちだして販賣したが良好の賣行であつた。

★エスクラピーダ・クルーボ 12月15日17時より傳通會館にて開催。會するもの15名。夕食後雑談。性の決定についておもしろい話があつた。大島博士、川上博士など遺傳學に造詣深い方々が居られたので、話に花が咲きトーカーの話、昼氣樓の話、不知火の話などあり。科學高等常識座談會を聴いてゐるやうだつた話し足りない氣分で定刻22時に閉會。

★クララ會では12月15日午後1時半より本年最後の Klara Kunsido を開いた。出席者15名。當日はケーシー嬢、アレキサンダー嬢其他 novaj kaj malnovaj amikinoj の歓迎の集りとして賑かで Nia Majstro の nasktago を祝し bongusta kuko を口にしながら且つ歌ひ且つ話して三時間を過した。



Por festi la
Naskiĝotagon de
Zamenhof, Sapporo

札幌のザメンホフ
誕生祭

(前列右より3人
目平野札幌エス會
長4人目田上札幌
エス會長)

横濱

Verda Jupitero では14日夕伊勢崎町有隣堂に於てザメンホフ祭を開いた。會するもの15人特に平塚より清水勝雄氏、學會より城戸崎益敏氏が出席せられて色々とお話しがあつて賑やかであつた。席上學會に對しその基本金に獻金するの動議が提出され各自相當の額を出して之を城戸崎氏に托し學會へ持つて行つて貰つた。散會後數人は氏と共にエスペラントで話し乍ら十時過まで伊勢アヲをして非常に愉快な時を持つた。

横須賀

14日林氏方にて Zamenhofa Vespero の集りをやる。會するもの九名。Nia movado を plivigli するための協議の結果、今までの横須賀エスペラント協會を改めて日本エスペラント學會横須賀支部とし代表者として林學氏を推す。

今後支部(稲岡町25林學氏方)にて毎土曜19時より研究會を兼ねた例會を開く。尙毎月第三土曜は支部の laborkunsido とする。

長崎

ザメンホフ祭を十五日午後五時より市内今町三菱俱樂部に於て盛大に開催出席者九十一名、市青年團理事長秦敏夫氏は長崎の青年の「緑の友會」の成立につい



Bonvena arko

て、佐藤彰男氏はシンガポールエス協會の現状を、濱部壽次氏はエス語と日本語の微妙な關係を、植田高三教授はザメンホフの追慕とエスペランチスモについて、淺田博士はエス語の實用化を呼ばれ、松尾孫八氏は國際聯盟とエスペラント主義について熱辯を振ひ、中にも辻與一郎氏の五十餘歳長鬚を戦かせつゝ、ザ博士プローン大會演説を引用したエス語の演説には滿堂感激した。餘興。謡曲「緑の星」濱部氏、緑の友會の舞踊、殺陣、長崎郷土藝術蛇踊、曲藝、手品、佐藤、辻氏、中にも寺田、眞田兩嬢(尋五年)の人形遊びは背景まで自作になりエス語の對話は當日の呼物であつた。舞臺監督古川貞子嬢。福引を終り記念撮影十一時過。ザ祭記念號を長崎日々新聞十二月十六日月曜附録へ(一頁)。辻氏の盡力により長崎エス俱樂部編輯。(富松氏報)

臺北

臺北エスペラント會では臺北放送局の好意により12月15日のザメンホフ先生の誕生日を祝福する爲にマイクロホンを通じて約2時間に亘りエスペラントの夕を催した。放送指揮は杉本良氏。プログラムは次の通り。

ザメンホフ博士の生ひ立ち 猿渡克治
言語としてのエスペラント 西田正一
世界各國の言葉に就て 杉本良
エスペラント對話 安田・山岸
Espero Tagigo 獨唱 八田知恵子

件奏 木戸春市
エスペランチスモに就て 甲斐・安田
希望運動とエスペラント 武上耕一
Espero 齊唱 會員有志

出演會員一同は放送室に於て……西はセイロン島より東はロスアンゼルスに到る迄 JAFK の及び得らるる涯の涯までもこの祝福のいたり届かん事を希ひつつ楽しく又意義深い夕を且つ語り且つ歌つた。この放送原稿を四六版 50 頁の小冊子になして發賣。希望の方は臺北市老松町 3 の 13 エス會宛申込まれたし(代 10 錢學會にもあり)。

松江

Lago Rondo 主催 Z 博士誕生會は當地始めての催で參會者15名同日會場で資料展を開いた。例會は毎月 6 日 lernanto は 20 名程。



Festo por Zamenhofa

Naskiĝotago de
Nagasaki Es-to-klubo長崎エス俱樂部のザ
メンホフ誕生祭

(立てるは高原憲氏)

小倉

12月15日のザ博士誕生日を記念に北九州では同志の Adresaro を發行した。御入用の方には郵券二錢封入申込次第御送り申上ます。申込は小倉市山越町五〇三エス語研究會宛。(田中氏報)

中津

中津エス會ではザメンホフ誕生祭を12月15日夜石丸鎮雄氏宅にて開催、東野氏のクレストマチオ記念講義があつて後賑やかにエス運動の前途を祝福した、會者10名。(石丸氏報)

京都

12月15日 Zamenhof-vespero として京都エスペラント會の例會を京大樂友會館に開いた。Fraŭlinoj も數人來會、盛會であつた。„Originala Verkaro“ を中心にザメンホフ追憶の話が二三あつて後、京都速記研究所長、Internacia Esperantista Stenografi-ta Asocio 理事森卓明氏の「速記の話」あり、遠く2000年前シセロ、チロの時代よりエスペラントの今日に至るまで日進月歩の速記に就いて語られ一同非常に興味深く謹聴した。

仙臺

12月15日逝けるザメンホフ博士の誕生日に當るのでザメンホフ祭と Festo de Libroj をやり、色々の新聞、雑誌、圖書等を展覽した。桑原君の開會の辭、菊澤氏はザメンホフ先生の生ひ立ちを、萱場、吉田氏は感想を流暢なエスペラントに托され、大森氏も立つて希望を述べられた。最後に兩にも拘らず御來會になつた東北大學エス會々長井上博士(總長)は國際語の必要を説かれ、毎日便所に行つたとき「エスペラントやさしいよみもの」を讀み、もう2,3回も讀まれたさいふお話で一同をアツささせられる。又一生の中には是非エスペラントで演説をやつて見せるさいふ熱心さにさすがの同志もタジタジこうして愉快に Verda atmosfero にひたつて我がザメンホフ先生の偉業を偲んだ。本の賣上10圓餘。

上田

15日午後7時松尾町鹽川喫茶店にてザメンホフ記念會開催。同志8名參集2里の田舎より來れる熱心なる同志2名あり。午後9時迄歡談に時を過す。

大阪

12月14日18時より大江ビルにてOES主催。高橋一氏座長。12名の合唱。演説ありたり。

札幌

12月15日午後6時30分から市内白樺喫茶店に於て當會として第一回の Zamenhof 祭を札幌エス會と聯合で催しました。會するもの19名。先づ田上札幌エス會長及平野札幌エス會長のエス語の挨拶に始り會員の演説、獨唱、餘興等に時の移るのも知らず、最後に Espero 及 Tagiĝo の合唱をして10時過散會。(鶴近氏報)(寫眞參照)

福岡

12月15日大名町クラブにてザメンホフ祭を催す。藤澤・江崎教授を始めとし諸氏の演説、合唱、劇等ありて盛會裡に10時散會。

金澤

★金澤エスペラント會 12月29日午後7時より例會場にて開催。梶野氏開會の辭、池田氏の挨拶に次いで今度金澤醫大に來られた山川教授の挨拶、お話しあり。各自自己紹介の後吉元氏の deklamo, 瀬川氏の Bjalistok 訪問の思ひ出話あり、一同 Kanto de Ligo, al la Esperantistaro を合唱。紀念撮影をして9時半散會する。

★金澤醫大エス會 十月からはじめた初等講習が一通り終つたので、十二月十五日七時星野教授の家で、茶話會を開く。出席者は講師瀬川氏を始め七名であつたが、愉快的會合であつた。丁度ザメンホフ祭の日に當つたので“Al la fratoj”, “Al la Esperantistaro” 等を唱ひ、又 Privat の Linguaphone Literatura seris のレコードをきいて、散會したのは十時半であつた。

高岡

十二月十五日午後一時より、高岡市役所參事會室にて、ザメンホフ博士の誕生日を祝ふ。集るもの三十名、深井氏のイズゲールの紹介、志甫氏のエスペラントによる通信の話、會員自己紹介、隠し藝等中々盛んであつた。

静岡

去る Zamenhof-nasko には吾々 Epserantistoj (Sizuoka Rjokusei Klubo) は高橋氏の萬國工業會議出席記念を兼ねて、ĉesstantoj は僅か十一人でしたが盛大に愉快に五時半から十時半迄 Esperanto で Saluto あり Parolado あり終て Kartludo をしたりして面白く閉會しました。(平瀬氏報)

横手

十四日午後六時半よりザメンホフ祭を行ふ。ザメンホフ博士の肖像を中心に綠星旗で飾られた横手圖書館の一室に一同着席。大山幹事長以下一同禮拜、エスペーロ合唱、大山幹事長「愛の人ザメンホフ」と朗讀した後、今後一層熱心に研究し且つ極力宣傳に勉むべきやうと希望を述べて式を閉じ講習後は漫談等にて時間の過ぐるを忘れ午後十一時散會した。

松山

12月18日ザメンホフ祭は村上幹事宅にて膝を交へて會談。菊地會長の體育に關する話、祝電披露エスペーロ、タギーダヨの合唱の後明年度に於ける當會のエス運動に關し協議をなし、3月大々的な講習をなすと共に、各々個人的運動に盡力することを申し合せた。稻葉幹事は記念として額用ザメンホフ像を製作を申出でらる。10時散會す。尙會員外として盲啞學校より三瀬女教諭、給仕の應援ありたり。

講習會だより

★長崎エスペラント俱樂部 東京高等商船學校實習生諸君その他に大神三菱電機技師指導して講習會を開き、最後の12月20日富松氏を迎へて茶話會を行つた。

★長野縣小縣郡和村 1月3日より5日まで3日間第三回初等講習會を。講師竹内藤吉氏。

★釜山エスペラント研究會 11月20日より初講開始。講師は釜山日報社泉氏。(寫眞参照)



Post la kurso,

Fuzan

釜山エス研究會講習

(後列右より3人目荒木會長4人目泉講師)

會合だより

★學會主催一月會話練習會 1月18日晚例により丸之内鐵道クラブにて開催。元逓信省技師現安中電機製作所試験部長高岸榮次郎氏が流暢なエス語にて「ラヂオについて」話さる。ラヂオの様械の組立構造等についての話で我々はラヂオ用の澤山の術語に關する知識を得る所が多かつた。その後で十二月の例會での清見氏の提案による一つの試みとして皆一團となつて順番に「Kiel mi fariĝis esperantisto?」の問題について話し合つて22時散會。

★芝浦エス會では12月20日忘年會を催す。中野氏の挨拶報告につき晚餐を共にし諸氏の演說餘興があつた。

横須賀 十二月八日午後一時、隣保會館に於て普及講演會を開く。プログラ
アモ次の通り：

國際語とは何か	岡本好次
横須賀の同志として一言す	林 學
エスペラントを學習した経験から	清水勝雄
三つの國際會議印象(エスペラントにて)	小坂狷二
	通譯 松葉菊延
愚なる學者達	理博 丘淺次郎

この外十數年以前外遊中 Esperanto を知り、その必要を痛感したと云ふ前市會議員 Okulisto 安西氏の飛入講演あり。加ふるに清水先生の御子息で關東學院ハーモニカバンドの指揮者たる武雄君の ハーモニカ・ソロ、タギーヂヨ其他があつた。尙小坂氏は當日御風邪のため残念ながら御出席出来なかつたので松葉氏が見本に anekdotoj をやり、清水先生が通譯された。

當日は晝間開催の故か、横須賀初まつて以來の不盛況で聴衆やつと 200 名、大いに悲觀したが反響は反つて大きく、已に數名の講習申込者を得た。又講演會場では不思議な程本がよく賣れた、新年早々初等講習開講の豫定。

名古屋 大曾根 Es-to Studo Societo は毎火曜夕服部氏宅にて會合。會員 8 名。主に高等文法や babilada maniero 研究。

京都 市外上鳥羽村では11月三高の同志西村繁治君の協力を得て上鳥羽エス會を組織し、12月3日青年團主催の近隣市町村青年會雄辯大會にて長谷川朝一氏出演「エスペラントとその社會的任務」と題して新しい同志の應援に迎へられ總ゆる平凡な野次を物ともせずエスペラントの爲に戦つた。

(長谷川氏報)

金澤

Sabata Rondo では歸省中の伊藤己酉三、魚住靜枝兩氏を迎え12月26日會合する。瀬川栴野氏も加はり又途上で Venables 夫妻に出會ひ 愉快的な日をすごした。

高岡

毎週水曜日午後時半より Venables 氏宅にて氏夫妻の指導にて會話練習及 Intima Libro 輪講毎回出席者20名以上。

臺北

★臺灣醫學大會參列の爲め來臺の淺田長崎醫大教授を十一月八日臺北驛頭に綠星旗を以て迎ふ。九、十兩日の大會終了後は全島各地を講演行脚され二十五日歸北。同夜專賣局クラブ樓上に歡迎茶話會を開く。博士は流暢なエス語を以て臺灣視察感想談に始まり續て血液型の知見の進歩に關し得意の長廣舌あり興味湧くが如く十時漸く散會。今回の醫學大會の好機に醫學者各位に個人宣傳に努められ是が爲めエス語研究熱が中央研究所衛生部及醫學專門學校方面に醸成さるゝ模様である。

★12月29日京城帝大長谷川教授の渡臺を受け集りを都島に開く。街頭は歳末賣出の忙しさに悠々同氏の歐洲エス語界の現状をきき團樂の夜を過し、翌30日自動車走して Ekskurso を行つた。

長崎

11月2日晚餐會。辻氏の朝鮮博見物談、長崎郵便局杉山電信課長の巴里電信會議の土産談、帆足氏のパテーシネマ封切で大賑ひ。

★12月21日クラブ評議員、委員會を開き明年度の次の如き計畫を協議す。國際聯盟長崎支部支持の件、市内諸學校巡回講演の件(淺田、植田兩教授に委嘱)。十年計畫にてエス會館建設基金募集の件——直に實行着手。UEA 委員高原憲氏矢上村へ移轉に付植田教授を推薦するの件。

★高商講演會 12月14日午後時より植田教授の「國際語の再考」察淺田博士の「最近犯罪捜査法」あり大講堂立錫の餘地なき盛會であつた。

★長崎醫大エス會 12月10日精養亭にて總會並びに茶話會を開催。會するもの20名。各々雄辯を振ふ。後淺田博士の北海道樺太旅行臺灣旅行談あり。博士自身の撮影になる活動寫眞づきに有益であつた。後植田教授の感想談あり。後附屬病院に於ても長崎エス會の F-ino 古川の盡力によりてエスペランチストのフレイスターノが養成されてゐる。

エス語入りの筑波繪葉書

各地の名勝繪葉書が日本語と對照して英語の説明文句があるのは屢々見る所であるが是れは餘り感心したところではない。この英語に代ふるにエス語を以てするのは正しい考方でもあり又エス語宣傳にも極めて有効なことである。この考の下に製作せられた繪葉書は從來あるにはあるが数が少いのみならず且つエスペランチストが自分用に製したものが多くて一般販賣品として店頭に出て居るものは見當らぬ。隨て宣傳の効果が甚だ薄い譯である。今回土浦町敷島町富山商店より發行したるエス語入りの筑波名勝繪葉書はこの意味に於て大なる効果を與ふるものと信ずる。同繪葉書は二色判十六枚一組にして包紙には、「筑波天然の美」と題し且つ冠するに Monto Tukuba konta pro belegaj pejzajgoj のエス句を以てせり。印刷亦鮮明、定價は一組二十錢(郵税二錢)である。筑波登山の同志は宣傳の爲め必ず購求あらんことを薦む。また希望ならば郵券共22錢で前記土浦町發行所へ申込まれても宜いと思ふ。尙ほ此の繪葉書にエス語を挿入するに至りたるは全く土浦町の同志野村安政君の盡力によるものである。

(大石和三郎報)

Esp. の實際化

★度々の大檢舉によつて何百となく獄窓の裡に隔離され、孤獨と束縛と戦つてゐる若き人々に援助を與える解放運動犠牲者救援會では毎月邦文の機關紙を出しているが、日本に於ける ruĝa helpo の情勢を世界各國の友誼團體に報ずるために從來英文で出していた報告を全部 esp. にし、半紙十數枚の raporto を全世界に毎月配布することになつた。Esp. 實踐化のよい手本である。

★科學全般に汎る左翼的研究雜誌である「プロレタリア科學」(前の「國際文化」)では今まで巻尾に esp. の resumo が載せられていたが、今度それを擴大し四頁にすると共に、別刷にして世界の無産團體に送ることにした。

内報係より

★各地方で講習會開催の節はなるべく速かにその責任者より内報へ次の様な形式にてお知らせ下さい。

(初講)自 1月20日 (1週・3回)
(中講)至 2月10日 (總計・18時間)
(講師・星尾望氏) (講書) (特別)
(參加30名) (小坂講書) (事項)

★内報は凡て20日締切。最近記事多きに付なるべく簡単に。

頁 の 員 の 會

★國民禁酒同盟の機關誌から思ひついたのですが學會でも宣傳専用の小形の新聞を作られたら如何でせう(月一回位の)。そして學會の費用で各方面へ寄贈される他主としてエスペランティストがポケットマネーを多少出して自分の縁邊へ毎號寄贈するのです。値段を安く十部以上一部一錢さか二錢さかさ云ふ風にしてもらひたいものです。そして安くするためには記事の一部は「レブオ」に重複してもかまわんと思ひます。例へば内外の報道記事の類初等講座等。また學會の内容、エス語の説明に關する記事は毎號同じものでもかまわんと思ひます。それをエスペランティストの寄附で全國の小中學校へでも残らず送るやうになつたら偉いことだらうと思ひます。新聞の内容より値段を安くすることが大切と思ひます。間接の効果として學會の出版物の賣行も大に増すことでしょうから多少の負擔を覺悟して一つやつて見て頂きたいと思ひます。

(越後 T. M. 生)

★去年の鐵道クラブ會話會及び第十六回大會で提案し多數の賛同を得た malliberejo に呻吟する若い解放運動の犠牲者たちに esp. 書籍を供給する爲の monservo は次のような結果となつた。

集め得た金は會話會での寄附總額 8.50 圓、大會での寄附金總額 28.46 圓その他を合せて計 42.43 圓及びエス和辭書 12, やさしい讀物 19, 和エス辭書 15 部、聖書 2, エス教程 1, 模範エス會話 1, 講習用書 1 を學會カニヤ書店その他の方々から寄贈された。

これを充分に供給する爲に一應エス語勉學の意志の有無を東京の刑務所にいる約 300 の人々に問合せた。これに對して受取つた返答 148 (今尚續々返答が來つゝある)、その中で意志なきもの僅か 1 名、目下他語を勉強中の爲、後に學ばんとするもの 4, 特に熱意を表明したもの 46, 既に經驗あるもの 23。

僅か一名を除いてすべてが esp. 學習を希望し、上記の照會書が獄中に配布せられるや一同歡聲を擧げて喜んださう事實を見てもわれわれの仕事が充分効果的であることを知られよう。上述の返答に對して寄附金で下記の書を求めて、それぞれ昨年中送付した。辭書 25, Krestomatio 4, 初等講座 20, エスペラント講座 56, マテオフアルコネ 4, 中等讀本 1。

回答の殆ど 99% 以上がエス語勉學の意志あるを知つて實にわれわれは意想外に反響のあるのに驚いた。以上のような數多くの希望者に對してわれわれは適當な學習書研究書を送らなければならないのだが上記のように集められた金額と書籍とは辛じて半數ほどの希望を充たしたに過ぎず、尙數十の他の人々は徒らに希望を燃やしながら本の差入を待つてゐる状態である。esp-isto としてこの事實を見逃し得ないわれわれはその資金及び書籍の募集に迫られている。全日本の esp-istoj に訴へて金銭なり使い古しの書籍一冊なりの寄贈に預り度い。書物の制限は書入れの全然ないこと。學習書が對譯書であること。洋書では Krestomatio, Biblio に限る。送り先は東京市外中野町中野 3895 柏木エスペラント會宛。

尙獄中の esp-isto から次の手紙に接したが、esp-isto として考へべき事實として下に載せる。「現在エス語の本が澤山出版されていますが監獄は對譯ものでなければ差入を許しません、然る時エス語の勉強をしてどうして完成することが出来ませうか? 勉強し初めた人々に喜びではなく失望を、更にエス語に對する不信を、輕べつを抱かせはせぬだろうか? 何となれば一通りの方法は監獄でなら半月で充分飲み込めるが、さてその得た知識で何を讀むべきか? 私が希望しているエス文範(千布氏編)すら再三再四交渉の結果許可を得た状態である。

そこでエス語は幸い政府の役人に熱心な esp-isto を持つてゐる、之らの人々を動かして是非書籍に對する制限を緩和する必要がある。然らざれば折角この優れた言葉を全く聞き嚙つた位で了らしてしまふ。せめてレヴオ・オリント位は差入可能になる様にして戴きたい。またザメンホフ博士の著書の如きは當然差入可能でなければならぬが残念ながら本の性質を知らない「教務」は之を許さない。

で私の希望は日本エスペラント學會から當局に交渉し、差入可能の書名を我々に報知して撰擇さしてくれることが出来ればこれ以上のことはない。この優れた世界語の爲に! 人類愛と平和をモットーとするエス語の爲に! 日本エスペラント學會がこれだけの世話を惜まないならばその喜びは私だけのものではありません!」(柏木エスペラント會報)

學 會 よ り お 願 ひ

會費の切れた方には封筒に「前金切」の印を捺しておきましたからどうぞ成可早く御拂込下さい。基本金が五萬圓になるまでは皆様から頂く會費だけで經常費の遺繰をして行かなければならないので仲々困難です。經常費の財源は唯會費にのみあるので此の取立は學會の重大な仕事の一つになつてゐますが催促といふものはされる方もよい氣持ではありませんがする方も決して愉快なものではありません。毎月會計簿を繰て前金切を選び出し封筒に朱印を捺す。これは容易な事のやうに思はれますが何分數が多いので並大抵ではありません。これを一二月續ければ大概の方は御拂込下さいますが、さうでない方へは翌月は刷込で御願ひします。一ヶ月待ても御拂込もなければ猶豫の御申出もなく、御断りもない場合には止むを得ず集金郵便で頂戴に出るのですが一人の事務員も居らぬ學會にまつてはこれが随分苦痛です。集金も全部入ってくればよいのですが中には拒絶されて戻ってくるのもあります。これに對しては今一應葉書で御意志を伺ひそれでも何の御返事もない時は遺憾乍ら涙をのんで除名の手續をさるのですが一名の會員をも失ひたくない計りにこれ程までに手を盡して居るにも拘らず除名された方の中には「二三ヶ月會費を滞納しても直ぐ首を切るなんて學會の遣方は厳し過ぎる」と惡口言ふ方があるさ聞くさ會計の苦しさをしみじみ感じさせられて憂鬱になつてしまひます。御都合の悪い方は御申出さへあれば御猶豫致すのですから遠慮なく御申出になつて下さい。望ましくない事ですが止たい方はこれだけの手数を待す前金切の捺印した封筒が届いたら直に御通知下さる様御願ひします。退會される方の中には忙しくて讀む閑が無いと言ふ方が有ますが讀うさいふ熱意さへあれば如何に忙しくとも必ずいくらかの閑を見出すのは決して難い事ではなからうと思ひます。又金が無て會費が拂へぬと言ふ方も有ますが一ヶ月二十錢といへば煙草二個にも足らぬ僅な額ですからなんさか都合して頂きたいものです。一ヶ年分纏てでなくても分納で結構なのですから。そして一人の事務員すら備ふ餘裕のない學會の現状を御諒察下さつて成可前金切にならぬうちに次の會費を御拂込下さる様各自が御心掛下さるならどの位係の者が助ることでせう。我國エス運動に於て學會に委ねられた使

命の大きい事を思ふ時に學會を御支持下さつて居る皆様方の熱烈な御援助をこの上とも希て止まない次第です。(係)

編 輯 後 記

★小坂氏の御病氣は殆んど全快。——12月1日御發病。病名不明のため永らく自宅で療養せられたが捗しくなかつたので12月23日帝大病院島園内科へ御入院。その後腸チブスと決定。一時は40°體温の上普通人とは病氣の経過がちがひ甚だ重態にて醫師よりも絶望を宣告せられた程であつた。學會の役員達も年末多忙の折ではあつたが日々御病氣の経過を案じ病院へ通つた。併し島園博士初め古屋主治醫の御努力と同内科の講師で我々の同志の一人なる板倉武博士が Samideano としての熱烈な御努力とで幸に危険期を脱したのは本年1月10日前後であつた。其後は普通の経過で2月上旬には御退院される豫定で一同愁眉を開いた次第です。御退院後も二ヶ月餘御静養の筈。右の次第ですから御安心下さい。終りに御懇篤なる御見舞状を下された諸兄に對し氏に代つて厚く御禮申上ます。

★理事長中村先生の急な御逝去のため次號に割愛した原稿が二三あります、筆者並に讀者の御諒承を乞ふ。

★本年即ち第十八回日本エスベラント大會は既記の如く金澤市に於て8月2日—4日開催に決りました。詳細は次號に。

★「川崎直一氏譯註『愛ある所神あり』(附録:エスベラント研究用書解題)は目下植字と校正を急いでいます、少くとも3月上旬には出して見せます」由。

★本號掲載の「憶出の中村精男先生」は大井氏微恙のため筆を執られず氏の話を編者が筆記したもので文責は全部編者にあります。岡本氏の「邪道に彷徨する國際語製造狂」は Occidental のこさが新聞にかゝれるや問合はせ殺到したため特に書かれたもの。高橋邦太郎氏の「Internacia Teknika Kongreso」は同會議に於て高橋氏自ら講演された原稿であります。

この他、有益な原稿で餘儀なく次號に廻はさればならなくなつたものが澤山あり、且つ體裁その他甚だ不備なものになつたことを編者は甚だ残念に思つて居ります。次號は全然面目一新一讀驚嘆の原稿が既に準備されて居る相でありますから埋め合はせは來月號の編輯者がやつてくれる筈です。(守隨)

語學獨修者の好伴侶はこれ!!!

日本エスぺラント學會編輯部監修

エスぺラント ★ ★

★ ★ 對譯詳註叢書

何語の勉強にしても字引を引いただけでは十分に意味のとれない事があるこれらの點について教へを乞ふべき人のない所におらるゝ方々にとつて對譯書はこの上もない好伴侶です。私は學會出版のこの對譯書が十分活用されてゐない事を遺憾に思ふ一人です。學會出版の對譯書はいづれも註譯者苦心の著作です。せひ御活用下さい。尙次に掲げた一文は川崎君が對譯書の必要をのべられた一文です(大井)。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. マテオ・フアルコネ | メ リ メ 原 作 0.35\ |
| | 大 島 譯 註 2\ |
| 2. ハ イ ネ 詩 集 | 城 戸 崎 } 譯 註 0.40\ |
| | 椎 橋 } 2\ |
| 3. 魔 法 使 | ザ イ デ ル 原 作 0.40\ |
| | 佐 ヲ 城 譯 註 2\ |
| 4. 代 理 通 譯 | ベル ナール 原 作 0.40\ |
| | 龜 山 } 譯 註 2\ |
| 5. 愛 ある 所 神 あり | トル ス ト イ 原 作 (植字中) |
| | 川 崎 譯 註 |
| 6. レイモント短篇集 | 伊 藤 } 譯 註 (近刊) |
| | 松 本 } |

「對譯詳註叢書」とゆうと「なんだ、そんなつまらないもの……」とゆう人があるかもしれません。それわおそらく英語方面に多い、無責任な、杜撰な、あつてもなくてもよいような譯註本の印象があるからでしょう。しかし佐々城さんの「魔法使」わそんなものでありません。「註解は文の構造、句と句との關係等、特に語學としての研究に資するやうな點に主に力を入れた。引用の例文は大部分ザメンホフからである。」この著者の言葉わ言葉ごうりに實行されています。私は篤學勤勉な、そしていつも事實をよく調べて、それからおだやかな結論をだされる、この先輩のこの書を讀んでいるとき、まるで同じ部屋で親しく向いあつて教へを受けているやうな氣がしました。譯註書として獨習者を利益することわもちろんですが、講習會を導かれるかたがたの教授法の參考としても絶好のものと思ひます。 — 川崎直一

日本エスぺラント學會出版部 振替東京 11325 番

學會取次洋書目錄

★洋書は如何なる場合でも前金注文でなければお送り致しません★

【新 着 書】

定價(送料別)

★Internacia Kantaro [音符の部] Hirt 新版。大增補の結果(増加數七十)定價改正…2.30 (4)

ザメンホフ博士譯著書

★Fundamento de Esperanto ……0.65 (4)	★Ifigenio en Taŭrido ……0.80 (4)
★Fundamenta Krestomatio ……1.30 (8)	★Hamleto ……0.70 (4)
★Lingvaj Respondoj ……0.70 (4)	★Andersen, Fabeloj 二卷…各 0.80 (4)
★Aldono al la Dua Libro ……0.25 (2)	★Rakontoj el Biblio ……0.30 (2)
★Marta ……1.30 (6)	★Proverbaro Esperanta ……0.70 (4)
★La Rabistoj ……0.80 (4)	★Originala Verkaro ……7.50 内地 (27)
★La Revizoro ……0.80 (4)	植民地 (55)

~~~~~ 再着在庫 (解説は Revuo 前數號を見よ) ~~~~~

~~~~~ 原 作 文 藝 ~~~~~

★Saltego trans Jarmiloj ……2.85 (8)	★Migranta Plumo 戯曲、小説、詩集 1.50 (4)
★Bukedo I, II. 二卷で ……0.60 (4)	★Laŭroj 名作集 ……0.80 (4)
★Tri Angloj Alilande 小説 ……0.55 (2)	★Tajdo, Hohlov の詩集 ……0.65 (2)
★Ginevra, Privat 著劇 ……0.15 (2)	★Stranga Heredajo 小説 ……2.85 (8)
★Krioj de l' Koro 詩集 ……0.15 (2)	★Sep Rakontoj 小説集 ……0.55 (4)
★Lilio, Sinnotte 夫人作小説 ……1.35 (6)	★Perdita kaj Retrovita ……0.10 (2)
★Vortoj de Cart 論說集 ……1.10 (6)	★Du Rakontoj 小説二編 ……0.30 (2)
★Vi, sola Esperanto povas ……0.18 (2)	★Mondo kaj Koro 詩集 ……0.25 (2)
★Modernaj Robinzonoj ……0.85 (2)	★Hundo Parolanta 喜劇 ……0.25 (2)
★Preter la Vivo 詩集 ……1.10 (2)	★Karlo Privat 博士の讀本用小説…0.25 (2)

~~~~~ 翻 譯 文 藝 ~~~~~

★Morto de Danton, A. Tolstoj ……0.85 (2)	★En la Lando de la Blanka Monto…0.55 (2)
★Natan la Saĝulo, Lessing 劇 ……1.00 (4)	★Ok Noveloj 小説集 ……0.55 (4)
★Fatala Ŝuldo 小説 ……1.10 (6)	★Elekt. Humoraj Rakontoj ……0.20 (2)
★Kio povas okazi 小説 ……0.20 (2)	★Aelita, A. Tolstoj 小説 ……1.70 (6)
★Sonĝo de Somermeza Nokto 劇…0.40 (2)	★Kantistino, Hauff 作 ……0.40 (2)
★Portreto, Gogol 小説 ……0.55 (4)	★Venecia Komercisto 沙翁劇…0.80 (4)
★Ruĝa Floro ガルシン作 ……0.10 (2)	★Aspazio, Leon Zamenhof 譯 ……0.80 (4)
★Luno de Izrael, Haggard 作 ……1.90 (6)	★Mimi 小説 Payson 譯…0.40 (2)
★Kalifo Harn Alraŝid ……0.15 (2)	★Du Noveloj, Jokai 小説 ……0.45 (4)
★Tatterly 犯罪小説 ……0.55 (4)	★Sinjoro Vento kaj S-ino Pluvo ……0.40 (2)
★Barbra, Jerome K. Jerome 劇…0.55 (2)	★Nevo kiel Onklo, Schiller 喜劇…0.20 (2)
★Malnovaj Paĝoj 小説集 ……0.40 (4)	★Manon Lescaut 小説 ……1.10 (4)
★Faŭsto I. Komentario 二冊で…0.80 (4)	★Malbela Anasido, お伽噺…0.05 (2)
★Atta Troll ハイネの長篇詩…0.80 (2)	★Ŝakludado 劇 ……0.35 (2)
★Bombasto Furioza 喜劇 ……0.10 (2)	★Verdaj Fajreroj 詩集 ……0.40 (2)
★Boks kaj Koks, Morton 喜劇…0.15 (2)	★Halka 歌劇 Grabowski 譯 ……0.45 (4)
★Aventuroj de Lasta Abenceraĝo…0.15 (2)	★Amfitriono, Molière 喜劇 ……0.55 (4)
★Camera Obscura 小説 ……0.70 (4)	★Rompantoj, 5 monologoj…0.40 (2)
★Mallumaĵo 小説 ……0.20 (2)	

- ★Reĝo Lear 沙翁劇1.45 (6)
- ★De Alpeninoj ĝis Andoj0.30 (2)
- ★El la Landoj de Ruinoj0.12 (2)
- ★Kaatje, Spaak 作の劇0.80 (6)
- ★Sokrato 劇.....0.65 (6)
- ★Advokato Patelin 劇.....0.30 (2)
- ★Fundo de Mizero 小説.....0.30 (2)
- ★R-U-R 劇『人造人間』1.00 (6)
- ★Karavano, Hauff 作小説.....0.55 (2)
- ★Cavalleria Rusticana 劇0.35 (2)
- ★Internacia Mondliteraturo 世界代表文藝叢書各號 0.70 (4)、倍號 1.40 (6)
1. Hermano kaj Doroteo 8. Nuntempaj Rakontoj 17. Insulo de Feliĉuloj
2. Legendoj, Niemojevski 9. Hebreaj Rakontoj 18. Barbaraj Prozajoj
3. Elekt. Noveloj, Turgenev 11-12. Deklaracio, 有島 19. Ano de l' Ringludo
4. La Nigra Galero, Raabe 13. Ses Noveloj, Allan Poe 20. Servokapabla!
5. Camera Obscura 14. La Firmao, Balzac 21. Nobela Peko
6. Skizlibro, W. Irving 15. Orientaj Fabeloj
7. Petro Schlemiel 16. Noveloj, Sienkiewicz
- ★EBI 叢書.....各號 0.18 (2), 倍號は 0.36 (2), 三倍號 0.54 (2)
- Bona Sinjorino, Orzeszko Konsiloj pri Higieno Intervidiĝo
- Rusaj Rakontoj, Sibirjak Reĝo de Ora Rivero, Ruskin La Patrino, Ernst Zahn
- Don Kihoto Servantes Lasta Usonano, Mitchel Elzasaj Rakontoj
- Amoro kaj Psiĥe, Apulejus Hungaraj Rakontoj Sub la Neĝo (三倍號)
- Bulgaraj Rakontoj, Vazov Nordgermanaj Rakontoj Amkonkurantoj, Schmidt
- Reaperantoj, Ibsen (倍號) Instituto Milner 戀愛學校
- Komerca Korespondo 商業文 Noveloj el Nigra Arbaro
- ★Ilustrita Biblioteko各輯 1.10 (4)
- 第 I 輯 東洋物語(四冊) 第 II 輯 海の物語.....(四冊)
- ★Tutmonda Biblioteko 世界名著叢書第 I 輯六冊、第 II 輯五冊各輯 2.00 (8)
- I: Mateo Falcone; Malgranda Johano; Memdisciplino; Norda Vento 等
- II: Grekaj Papirioj; Kapitanfilino; Homa Lingvo, Bonhumoraj Rakontoj 等

~~~~~ 科學社會宗教其他 ~~~~~

- ★Laborĉarto 労働大憲章 .....0.12 (2)
- ★Artefarita Altmontarsuno .....0.10 (2)
- ★Kormalsanoj 心臟病.....0.40 (2)
- ★Evoluo de Telefonio .....0.55 (2)
- ★Sendanĝereco de Francujo .....0.50 (4)
- ★Etiko, Kropotkin .....1.00 (6)
- ★Komerca Vortaro .....1.00 (2)
- ★Franca Gramatiko.....0.35 (4)
- ★Evangelio de Horo .....0.08 (2)
- ★Varmkulturo 熱療法.....0.45 (4)
- ★Fotografia Optiko 寫真光學.....0.35 (2)
- ★Monadologio de Leibniz .....0.15 (2)
- ★Teknika Vortareto 教育、心理學.....0.20 (2)
- ★Internacia Farmacio .....1.65 (18)
- ★Fundamento de Kvakerismo.....0.95 (6)
- ★Internacia Kantaro Tekstaro .....0.80 (2)
- ★音符:—La Espero .....0.15 (2)
- ★音符:—La Vojo .....0.10 (2)

~~~~~ 學 習 用 書 ~~~~~

- ★Oficiala Klasika Libro.....0.40 (2)
- ★Bennemann エス獨辭典2.10 (4)
- ★Bennemann 獨エス辭典4.35 (8)
- ★Christaller 獨エス辭典.....6.50 (8)
- ★Esperanto Teacher.....0.55 (4)
- ★Millidge エス英辭典.....4.40 (6)
- ★Petro 講習書.....0.40 (2)
- ★Labor-Kajero0.18 (2)
- ★Cours Méthodique 三冊で1.20 (8)
- ★Maupin エス佛辭典.....0.80 (4)
- ★Maupin 佛エス辭典1.60 (8)
- ★Verhältnisswörter 研究0.70 (2)
- ★Unna Legolibro Kabe (在庫多數) 0.70 (4)
- ★Rhodes 英エス辭典2.10 (12)
- ★Grammar and Comentary1.90 (6)
- ★Vortaro de Esp. Kabe.....1.00 (8)

Heroldo de Esperanto

特別見本號あり、一部 10 錢、送料 2 錢。御申込み下さい。

本邦で出版の 學會取次書其他目錄 (注文は前)(學會の振替口座は) (金に限る)(東京 11325 番)

| | 價目 送料 | | 價目 送料 |
|------------------------|---------|--------------------|----------|
| ★ザラシ演説集..... | 0.80 .4 | ★緑の星に憧れて..... | 1.20 .8 |
| ★夜の空の星の如く (同上和譯) | 0.80 .6 | ★新覽王 (エス文) | 0.30 .2 |
| ★我國における外國語問題とエス..... | 0.60 .4 | ★悪夢 (エス文) | 0.20 .2 |
| ★カルロ (四方堂版) | 0.20 .2 | ★大成和エス辭典 | 4.80 .18 |
| ★心の片隅..... | 0.50 .2 | ★模範エス會話..... | 1.20 .4 |
| ★詩集花束..... | 0.80 .4 | ★寡婦マルタ (改造文庫)..... | 0.30 .4 |

◆日本語エスペラント小辭典 (三高) [普及版] ((値下)).....0.50 .2

◆模範エスペラント獨習 (秋田、小坂共著) [普及版]1.00 .8

◆日・エス・支・英 會話と辭書[普及版] 0.65 .6 [上製] 0.85 .6

◆エスペラント絹ハンケチ (高級刺繡).....
 星光下の地球、旭昇る富士山の二種あり。
 (女別申出の事) 各 1 枚 75 錢送料各 2 錢

★新撰エス和辭典附録 **Kvara Oficiala Aldono** 一表 (昨年度會員名簿第 27-) (郵券 2 錢) (28 頁へ収載せしもの) (送附の事)

★蓄音機レコード (小坂氏) 蓄音機 會社合同等にて 目下品切中
 (吹込) ため 下交渉中にて

東京市牛込區 財團 日本エスペラント學會 振替口座
 新小川町 3 の 15 法人 東京 11325 番

KORESPONDA FAKO

★**Francujo**—S-ro Raymond Lebrun; 139 rue d'Etretat, Hâble, Seine, Inf.: 十七歳の若き佛蘭西人、若き婦人同志と文通希望。

★**U. S. S. R.**—K-do Vill Cigankov; Moskvo, Pokrovka ul. d. 27, kv. 61, U.S.S.R.: „skribos al vi pri mia vivo en Soveta lando kaj sendos rusajn ilustritajn kartojn.“

★**U. S. S. R.**—K-do L. O. Feigin; Moskvo, Centra Moskva ul. d. 11, Kv. 16, U.S.S.R.: 日本人と長く文通希望。

★**Japanujo**—S-ro Zensuke Kusuda; Akaokamachi, Kochi-ken: 17 jara, koresp. kun gejunuloj.

★**Bulgarujo**—S-ro Toma Ajolov; str. „ii. August,“ No 1, Plovdiv, Bulgarujo: I. P., L.

★**U. S. S. R.**—S-ro Demetro Albanov; Vladivostok, Regna Universitato, Orienta Fako, U. S. S. R.: 眞面目な文通者を希望, pri diversaj temoj.

★**Japanujo**—S-ro Masakiči Šioda; Širakaŭamachi, Honmachi 67, Fukušima-ken: deziras korespondi kun barbiroj ĉiulandaj.

★**Belgujo**—S-ro Marc Devolder, Vierhoecken

Gheluwe bij Meenen; 日本人と PI (bdf).

★**U.S.S.R.**—S-ro K. M. Kolobaškin; Volovo-Livenakoje, Orlovskoj gub. 日本人と通信希望

★**Hollando**—S-ro Ph. Winkelman; Telegrafa Oficejo, Eindhoven; 日本人と PI, 雜誌交換.

★**Japanujo**—S-ro Isaku Nakano; Ko-541 Širohama-mura, Šikama-gun, Hyogo-ken; kun seriozaj ges-anoj, PI. L.

★**Argentino**; F-ino Nelly Siegenthaler; General Roca, F. b. b. a.; 婦人同志と文通希望.

★**Anglujo**—S-ro C. L. Jenkin; „Hastings“ Free School, Lane. Leicester; 婦人同志と文通希望.

★**Garmanujo**—S-ro Ernst Fickler; Riesa-Merzdorf, Elbe; instruisto 小學兒童 (12-13 歳) の間の通信希望.

★**Japanujo**:—S-ro Kenji Takahaši, Nakamura-mači 1388, Naka-ku, Yokohama; dez. interŝanĝi L aŭ PI kun junuloj.

ESPERANTOLOGIO

川崎・岡本個人雜誌 (詳細前月號)

◇第一號發行遅延 (2 月中旬)◇

財団法人 日本エスペラント學會發行圖書其他

| | | 價 | 送料 |
|----------------|------------------------|------|----|
| エスペラント 捷徑 | 最新最良の獨習書…………… | 1.00 | 6 |
| エスペラント 講座 | 外國語を知らぬ人の獨習講義録…………… | 0.50 | 4 |
| 新撰 エス 和 辭 典 | 語數一萬五千餘、譯語正確、索出至便…………… | 0.75 | 2 |
| エスペラント 講習用書 | 文法教科書と讀本とを兼ね…………… | 0.35 | 2 |
| エスペラント 短期講習書 | 大きな活字で要領よく編輯した…………… | 0.20 | 2 |
| エスペラント 初等讀本 | 挿繪入程度低く小中學生にも適す…………… | 0.30 | 2 |
| エスペラント 中等讀本 | 興味深き讀み物數十篇を収む…………… | 0.30 | 2 |
| エスペラント 發音研究 | エス語發音上の疑問を氷解す…………… | 0.30 | 4 |
| 點字エスペラント文法と小辭典 | 盲人用獨習書兼字引…………… | 1.00 | 6 |
| エスペラント やさしい讀み物 | 笑話廿二篇を對譯詳註し興味横溢…………… | 0.10 | 2 |
| 愛の人 ザメンホフ | エス語創案者ザ博士の傳記…………… | 0.80 | 6 |
| リングヴィ・レスポンドイ | ザ博士の言語上の解答を蒐む…………… | 0.50 | 4 |

~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

1. マテオ・フアルコネ 「カルメン」の作者メリメの名篇……………0.35 2
2. ハイネ 詩 集 情熱詩人ハイネの詩數十篇……………0.40 2
3. 魔法 使 ザイデルの爐邊物語中の一篇……………0.40 2
4. 代理 通 譯 一幕物抱腹絶倒さす程の大滑稽劇……………0.40 2
5. 愛ある處神あり 杜翁の短篇。附録「エス學習書籍解題」植字中
6. レイモント 短篇 集 「農民で」有名な波蘭文豪レ氏の短篇二篇……………植字中

~~~~~ エスペラント書き日本叢書 ~~~~~

1. 骸骨の舞 跳 秋田雨雀戯曲三篇……………0.40 2
2. 倫敦 塔 夏目漱石原作 西博士エス譯……………0.15 2
3. 惜しみなく愛は奪ふ 有島武郎原作 東宮氏エス譯……………植字中

| | | | |
|--------------|---------------------------------|------|-------|
| エスペラント 單語カード | 七百二十語に一々用例を示す…………… | 1.70 | 12 |
| エスペラント 文例集 | カードと同一内容の本…………… | 1.70 | 8 |
| エス 演説會話レコード | 小坂氏吹込兩面…………… | | 目下品切中 |
| エスペラント 便箋 | 正百枚一冊…………… | 0.20 | 4 |
| エスペラント 封緘紙 | 八十枚入一袋…………… | 0.20 | 2 |
| エスペラント 手拭 | 三越特製上等…………… | 0.20 | 2 |
| 日本風景風俗エハガキ | 四枚一組三色刷エス説明入…………… | 0.10 | 2 |
| 緑星章 | 甲種(安全ピン止) 乙種(背廣用) 各 (送料共)…………… | 0.30 | - |
| | 丙種(安全ピン止特製) 丁種(背廣用特製) 各…………… | 0.50 | 6 |
| 緑星カウスボタン | (箱入一組)…………… | 1.20 | 6 |
| 緑星旗 | 紙製緑地に白く「エスペラント」と抜く。十枚(郵税共)…………… | 0.15 | - |

| | | |
|--------|------------|---|
| [無代進呈] | 『宣傳の榮』 | { 百枚以下無料(但送料卅枚毎に四錢)
百枚以上百枚毎に實費送料共六十五錢 |
| | 『宣傳のチラシビラ』 | { 三百枚以下無料(但送料百枚毎に二錢)
三百枚以上は百枚毎に實費送料共十錢 |

La Revuo Orienta—Monata Organo de Japana Esperanto-Instituto,
Ŝin'ogaŭamaĉi III-15, Uŝigome, TOKIO, Japanujo; abono internacia 7 sviss. frankoj.

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財団法人 日本エスペラント學會

【東京市牛込區新小川町三の十五】【振替口座東京 11325 番】

- 目的 エスペラントの普及、研究、實用
- 事業 (a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表
(b) 雜誌及圖書の刊行等
(c) 講演會、講習會の開催及後援
(d) 其他本會の目的を達成するに必要と認むる事業
- 會費 (a) 普通維持員 年額 2 圓 40 錢 (b) 正維持員 年額 3 圓
(c) 贊助維持員 年額 5 圓 (d) 特別維持員 年額 10 圓以上
(e) 終身維持員 一時金 100 圓以上
- 入會手續 { 住所、職業、姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい。(振替送金最も安全)
- 維持員の特典 { 1. 毎月研究雜誌“La Revuo Orienta”の配布をうく
2. 出版圖書の割引をうくることあり
3. 語學上の質疑其他一般の問合の返事をうく
4. 宣傳の「榮」その他宣傳材料を無料でうくることを得

詳しいことは直接お問合せ下さい

役員名簿 (五十音順)

| | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|---------|--------|
| 理事長 理 博 | 中村 精男 | 理事 文 博 | 高楠 順次郎 | 理事 | 大井 學 |
| 理事 | 秋田 雨雀 | 同 東朝高長 | 土岐 善麿 | 同 | 三石 五六 |
| 同 | 上野 孝男 | 同 醫 博 | 西 成 甫 | 監事 氣象臺長 | 大石 和三郎 |
| 同 女大教授 | 河崎 なつ | 同 | 美野田 琢磨 | 同 | 木崎 宏 |
| 同 中大教授 | 川原 次吉郎 | 同 醫 博 | 望月 周三郎 | 同 農學校長 | 清水 勝雄 |
| 同 文 博 | 黑板 勝美 | 同 東朝顧問 | 柳田 國男 | 顧問 法博男爵 | 穂積 重遠 |
| 同 専大教授 | 小林 鐵太郎 | 同 鐵道技師 | 小坂 狷二 | 同 子 爵 | 三島 章道 |

本誌購讀料 (郵税別)

| | | |
|-----|--------|------------------|
| 一 部 | 圓 0.20 | 學會持維員には
無代頒布す |
| 半年分 | 圓 1.20 | |
| 一年分 | 圓 2.40 | |

本會振替 { 一般 { 東京 11325 番
會計用 { 長野 3283 番
口座番號 { 基本金専用東京 32089 番

昭和五年一月二十五日印刷

昭和五年二月一日發行

編輯兼 大井 學
發行人
印刷人 高見澤保芳
(一國印刷所)
發行所 東京市牛込區新小川町三ノ一五
財団法人 日本エスペラント學會

定價貳拾錢 (送料貳錢)

昭和五年二月一日發行 (毎月一回一日發行)
エスペラント研究雜誌「ラ・レヴ・オ・オリエンタ」第十一卷第二號